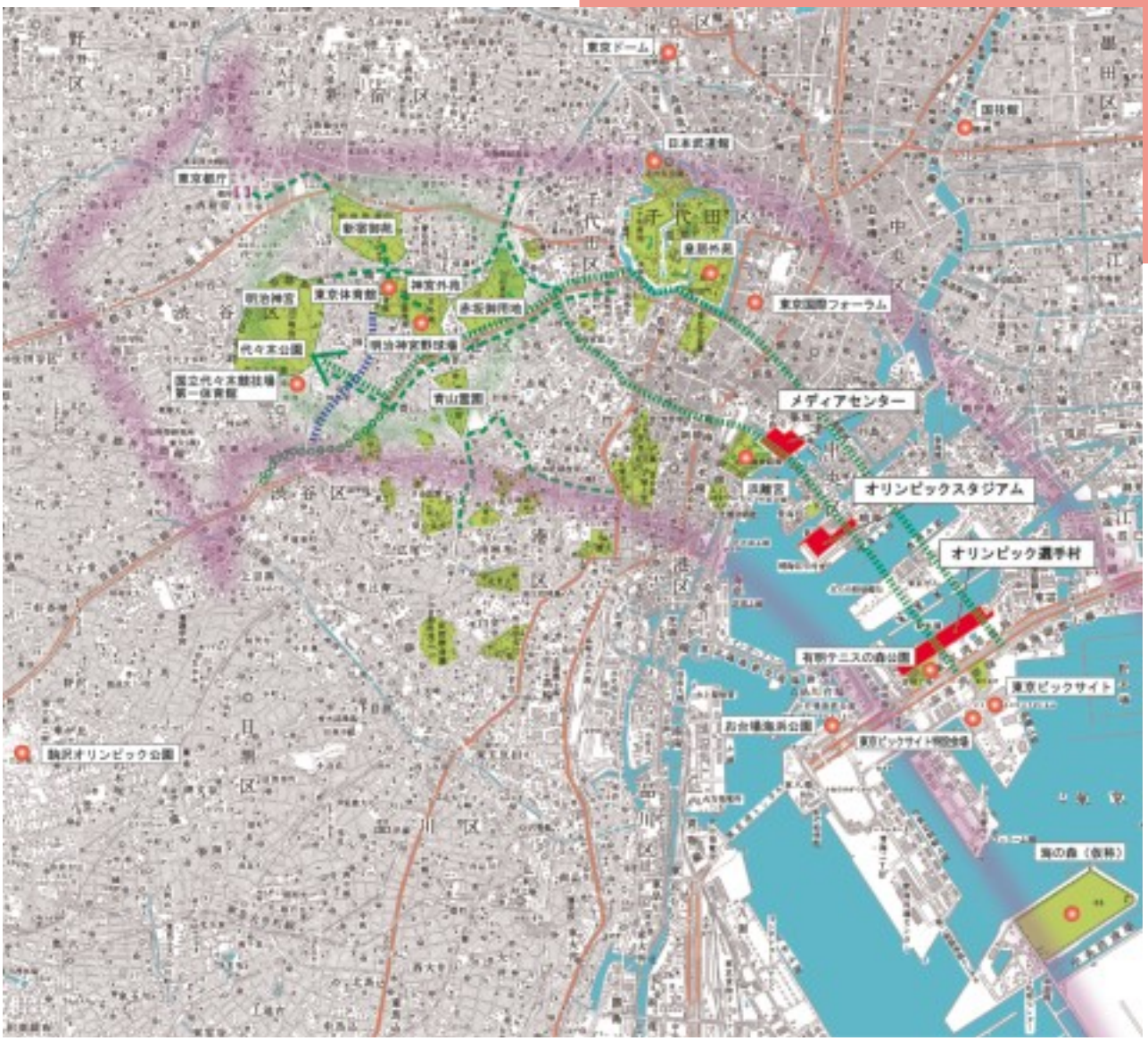
No.167

CLA journal



特集／オリンピックと緑の環境資産～東京オリンピック2016に向けて～

Special Edition：The Olympics and Legacy of Green Environment

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会
基本理念

我々の使命は，新たな環境認識のもとに，人と自然との関係を科学的，芸術的に把握し，環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって，安全で豊かな環境の創出，すなわち，「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は，日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し，発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は，来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し，技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し，技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は，社会的倫理観のもとに，公正な技術競争を通し，内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は，内外の関連技術者との交流を通して，協調関係を積極的に推進し，多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は，経営体質の向上と安定を図ることによって，魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成７年５月

「新しい環境文化の創造―造園コンサルタントビジョン―」より

目　　次

特　集：オリンピックと緑の環境資産～東京オリンピック2016に向けて～

論　　説

オリンピックと環境／蓑茂寿太郎―― 2

シンポジウム

スポーツと環境都市の未来を考える―― 6

主題講演（Ⅰ）

五輪開催と東京の水と緑の骨格づくり／石川幹子―― 8

主題講演（Ⅱ）

2016年東京オリンピック・パラリンピック招致に向けて／雑賀　真―― 11

パネルディスカッション

スポーツと環境都市の未来を考える―― 15

長野オリンピックアーカイブス／宮入賢一郎

―自然との共存をテーマにした冬季オリンピック―― 21

支部活動報告／22，社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿／28，おしらせ／31，32，編集後記／32

表紙写真：風の道（五輪軸）構想図

この風の道（五輪軸）構想図はCLAが，2016東京オリンピック招致に向けたランドスケープ提言として，平成19年１月に発表した「《提言》『風の道（五輪軸）構想』～東京みどりと水の都市軸づくり（案）～」の中の全体構想です。

この提案は，「10年後の東京」（東京都：平成18年12月）を後押しする目的で策定されました。臨海地区が主会場となることを前提に，既存施設が集中する神宮外苑地区とを結ぶ軸を「風の道（五輪軸）」と設定し，大規模な緑地･オープンスペースとこれらを繋ぐ道路・河川等の緑地機能を強化・ネットワークするスキームと具体化に向けた整備手法の提案を行っています。

スキームとしては，まず青山通りなどを軸に，交通計画によって可能となる「緑陰道路化」＋沿道の再開発などで生み出す「誘導民有緑地」が，『風の道SPINE』（SPINE：背骨）を形成し，都市全体のみどりのムーブメントと相俟って，最終的には，「緑に覆われた『風の都市』東京」へと発展していくことを想定しています。

緑を創り・育てることに生きがいを感じている我々の思いを込めた。そんな一枚の図面です。　（萩野一彦）

❏企画主旨

CLA副会長・広報委員長
細谷　恒夫

われわれ造園界は「2016年東京オリンピック・パラリンピック招致支援」活動を推進しています。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書は，世界中に見られる気候変動に関する現象を人間活動による二酸化炭素など温室効果ガス増加に気因する温暖化と明確に関連づけ，厳しい現実をつきつけました。

1964年，東京オリンピック開催は日本復興の姿を世界に示しましたが，高速道路を短期間で建設等により貴重な都市の水辺空間を失うなど様々な問題を残しました。オリンピックは都市の姿を一変させる大きな力を持っています。オリンピック開催都市は，成熟した大都市が抱える多くの都市問題を解決し再生するために世界の諸都市へ「範」を示すことが求められ，これこそオリンピックが担う新たな使命でもあると考えます。東京においてはオリンピック招致を契機に都市の持つ可能性を存分に開花させ，負の遺産を解消し，21世紀に相応しい持続可能な都市へと大改造していくことが求められます。また，オリンピック開催という大きな目標は，スポーツ振興や社会の閉塞感打破のきっかけになると考えます。

昨秋，CLAはシンポジウム『スポーツと環境都市の未来を考える』を開催し，有識等に環境都市の未来とスポーツ振興について議論していただきました。蓑茂寿太郎熊本県立大学理事長からは，1964年の東京オリンピックは多くの遺産を残し，戦後の日本の復興に寄与したが，その反面負の遺産も残したこと，2016年東京オリンピック・パラリンピックでは前回の東京オリンピックの反省を踏まえ，環境遺産として何を残せるかを示していただきました。これらの示唆は持続可能な環境都市づくりに多いに役立つと思います。

特集／オリンピックと緑の環境資産～東京オリンピック2016に向けて～

論　説

オリンピックと環境

蓑茂寿太郎
（熊本県立大学理事長　日本造園学会会長）

東京は昨年６月のIOC理事会において，リオデジャネイロ，シカゴの南北アメリカ大陸都市と並んで2016年開催の第31回オリンピックの有力な候補に残った。来る10月にコペンハーゲンで開催されるIOC総会でいよいよ最終決定される。果たして東京が再びオリンピック開催の栄誉に輝くであろうか。

グローバル化の進展とともに世界の都市間競争は一段と激しくなってきている。アジアの先進国日本には，新しい国づくりに果敢に挑戦する志が今こそ必要である。それは環境と経済が調和した地域社会で埋めつくされた国土建設に向けて，しかも国民の総意としてのものである。環境と経済が共生する社会は小手先でできるものではない。このことを私たちは認識し，小手先でなく大々的な取組みに舵を切った。地球環境の課題認識に止まるのでなく，解決の方法をあらゆる角度から探り，解決の技術を開発し，方法と技術がつながった方策を提示してきている。だから大学におかれた環境冠学部も29を数えるまで多様化した。ランドスケープアーキテクトないしランドスケープ技術者の今日的使命はこれに取組む重要な一員になることである。オリンピックの開催をめざすのは，そうした環境・経済共生社会に挑まざるを得ない日本社会の牽引役，先頭走者としての期待が東京にあるからである。そのようなことから，オリンピック開催がたとえ一都市に与えられる栄誉だとしても，その準備は国民的コンセンサスを得て，国家的支援を伴ってなされるべきだと思う。

21世紀初頭のこの時期に東京で２度目のオリンピックを開催する意義は何か，私は50年というスパンで地域のコンセプトを見直すことにあると思う。経済が極度に優先し，環境対策が追従した地域づくりをひた走って50年が経った。これからは環境が本位となって持続可能な経済活動がつづく時代である。そして50年スパンの長期計画を単なる年次計画推進の走路役として見ることの否定である。戦後まもなく策定された社会資本整備計画を根本から見直す絶好の機会を与え，地域づくりのコンセプトをリセットするのがオリンピックの開催準備だとしても過言ではないだろう。2016年の開催地に選ばれるなら，東京は50年ぶりである。この間日本の都市が二度誘致に失敗していることも鑑み，1964年開催の東京オリンピック以来の重要な出来事に当事者意識で向き合ってみたい。

オリンピック開催地に与えられる栄誉は，その期間「五輪都市としての世界の注目を浴びる」という栄誉でもある。情報化社会の進展により，一国一地域から発信された情報が多くの情報群の中に埋没してしまうのが昨今である。よほどの事件でない限り一地域の情報が同時に地球上で注目され駆け巡ることはない。このように考えるとオリンピックは大変重要な情報発信の機会である。情報には良いものもあれば悪い情報もある。一過性のものもあれば，末永く残るものもある。2016オリンピックを良い情報として，また末永く残るものとしなければならない。そのために以下の３つのことに適ったオリンピックとして開催準備すべきだと思う。

■ヒューマンスケール（人間的尺度）の環境を東京に取り戻す

世界同時不況とともに，20世紀の自動車依存の都市はいずれも厳しい局面に立たされている。そして人間が住まう町は，マシンスケールでなくヒューマンスケールであるべきだとの主張が蘇る兆しである。オリンピックに限らずグランドデザインを描くにあたっては，何よりもそのコンセプトが鍵となる。オリンピックの場合は開催より前にその誘致が必要で，そのためには大多数の国民の共感を得なければならないからなおさらである。とにかく共感ある考えの提示が求められる。その一つとして環境負荷を最小限に抑えることが近年のオリンピックでは常道になってきている。

そこで，そのコンセプトを具現化したのがコンパクトな会場計画である。かつては，オリンピックの開催を都市改造の絶好の機会と捉えることが多かった。だからオリンピック開催が契機となって，当該都市の地図が大きく描きかえられることも珍しくなかった。これに反してコンパクトな会場計画だとオリンピックの前と後で，当該都市の地図を大きく描き変えることにはならないであろう。第18回東京オリンピックは，そんなに大きな広がりの中に会場が設定されたわけではないが，東京の地図に歪みという傷跡を

残したのが残念だった。マシンスケールの都市づくりの契機としてオリンピックが位置付けられたためである。そしてその歪みは50年近くになるいまでも消えていない。江戸のストックを土台に東洋のベニスを構想した渋沢栄一などの先人の思いを裏切ってしまった。

皇居を中心とする都心地図で水色に塗られていた川や運河を高速道路の灰色に替えてしまった。オリンピックの機会を捉えて東京の都市建設を飛躍的に進行させようと意図したのであるから，当然の結果ではある。しかし，同じことを二度と許すわけにはいかない。東京だけでなくその後もメキシコにおいても，アジアで二番目のオリンピック開催だったソウルにおいても,そして先般の北京においても，初めてのオリンピック開催の栄誉を得た都市では，当該都市の地図を大きく書き換える結果をまねいている。

ではコンパクトな会場計画を正解にするには何が必要か。その答えが「ヒューマンスケールの環境」だと言いたい。これを東京に取り戻すのである。現状に問題があるなら，それを大きく書き換えるオリンピックであってよい。その大きな書き換えは，負の遺産として残る環境を書き換えるもの，すなわち50年間の歪みを修正するものである。そして，新たな挑戦がこれに付加されなければならない。

東京は世界に類例を見ないほどたくさんの小公園を有する都市である。公園の総面積では世界の主要都市で最低の水準であるが，数は世界最多である。小さな公園が星の数ほどある。その市街地でのあり様を活かしてヒューマンスケールの環境を大都会に取り戻すことで魅力となる。公園と公園を連結して地域の小さな公園系統を造りだす。そのような都市細胞レベルでの地図の書き換えが起こるのを期待したい。これがコンパクトシティの見本となる。自家用車がないと動けない都市ではなく，公共交通機関と徒歩や自転車で快適に移動可能な都市に塗り替えてほしい。パラリンピックも競技場だけで行われるのでなく，町の中で開かれる大会にしてほしい。そうすることでユニーバーサルデザインも重なったヒューマンスケールの環境都市が蘇る。2016年東京オリンピックをそのキックオフの機会にしたい。そうであるならこの2016オリンピックは間違いなく正の環境遺産を東京に残すはずである。

■共（きょう）の緑で蘇る東京

さて，公共概念に新しい動きが見られるのも21世紀の日本の特徴である。「新たな公」の登場以降，公共を「公と共」を区分して使い分けようという識見がみられるようになった。これまでの公主導から共の力が有機的に機能する社会の構築が求められ，その方向にどんどん進んでいる。NPO組織が無数に結成され，市民ボランティアの活動が閉塞感漂う地域に風穴を開け，長い間行政主導で進められてきた町内会活動が地域自治として運営されてくるようになった。このような潮流を的確につかむなら，今時のオリンピックも公だけが準備するものではないこと自明の理である。果たして共の力が世紀の祭典オリンピックでどのように発揮され得るであろうか。開会式のマスゲームへの参加だけで済まされる市民参画時代ではない。

今から40年も前の第18回東京オリンピックでは，明治神宮内外苑一帯と駒沢オリンピック公園が主会場となった。前者は大正時代に共の力，国民の献金や地方から寄せられた献木でつくられた「人が造った森」で50年来のストック空間を活用したものであり，後者の駒沢オリンピック公園は戦後復興の象徴となり，これ以後の昭和の社会資本整備のモデルとなった都市公園である。もちろんマラソンコースとなった甲州街道のケヤキも小さかった。二つの会場のケヤキ並木も現在では,東京を代表する緑に成長している。その第18回東京オリンピックを「世論の第二次聖戦」と捉えた人もいる。『輿論と世論』の著者である佐藤卓巳氏である。このようにオリンピックを材料として世論の議論がなされていることも50年後の東京の特徴で，シカゴやリオデジャネイロにはない。この『世論と輿論』の議論は，公共空間の計画やデザインに携わるランドスケープアーキテクトにも重要な知でありセンスだと思う。風のような世論ときちんと意見が伴った輿論の区別こそ，まちづくりや地域計画，そして公園のデザインを進めるうえで重要ではないか。

もし東京のような成熟都市に新興都市とはまったく違った評価が下されるとするなら，一つとして環境への取組みがあり，民意の反映が二つ目にあると思う。この両者が備わって成熟都市・東京の独自性が見えてくる。

ここで,全世界が共通して迎えた環境時代の今において，成熟都市の独自性を緑の整備からも明確に示す必要がある。新興都市にありがちな先例を模した公主導の環境緑化だけでは到底共感は得られない。加えて必要なのは環境志民が主体となってのボトムアップ型のコミュニティ緑化であろう。この取組みをセンセーショナルに発信できるか否かがカギである。東京でのそうした営みがフロントランナーとして評価され，期待の高まりとなることが何より重要である。市民ワークショップを通じて環境志民との協働を重ねてきている日本のランドスケープアーキテクトへの期待は，ここでも高まる。

また，地球温暖化防止に向けた市民行動が随所で起こっているのが現代である。地球環境への対応がオリンピック

開催地決定の大きな判断要素になっている。地球環境問題は，一部のエリアだけのこととする認識は過去のものとなり，その範囲は地球全体に拡がっている。この状況認識から，東アジアのランドスケープアーキテクトが一堂に会して10年来交流を深めてきている日韓中ランドスケープフォーラムを次の新しいステージに進めなければならないと痛感している。そのことと二巡目のオリンピック開催に向けての私たちの活動は，実は重なり合うものだということを感じている。

そして，「一過性だから，やむをえず」を許さないのが21世紀のオリンピック招致である。日本は，先の東京オリンピックの後に，札幌，長野と２つの冬季オリンピックを経験した。この経験も無にしたくない。長野大会（1998）の頃は，オリンピックが商業主義に走りすぎていた。その反省とともに自然保護も大きく議論された。特に，冬季オリンピックは山岳自然地に競技会場を整備するため，自然保護との調和が課題であった。競技環境と自然環境の共生が求められたのである。これに対し，都市で開催される夏季オリンピックで環境保護が議論されることは少なかった。しかし，20世紀末からはこれが主題となり，1999年にIOCはアジェンタ21を発表するまでになった。自然環境の問題については，一歩進化した取組みが東京では欲しい。オリンピック会場等の建設行為で生じるCO_2の処理をどうするか。あるいは，環境モニタリングをしながら会場整備を進めることなどは，当然として，それ以上のインパクトがほしい。東京には，たくさんの緑のストックがある。それらは文化的にも高い評価を得ている。これらの緑のストックを活かす工夫が共の力から引き出されると素晴らしいのだが。

■新しい東京と三つの森

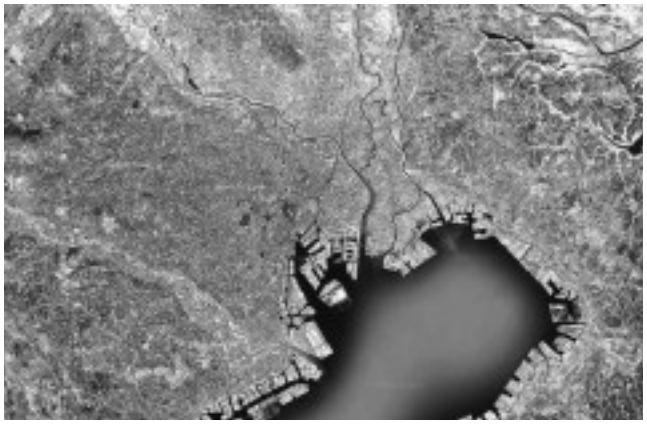
環境に視点に定めて考えると，2016年の東京は都市環境大転換のエポックメーカーになる潜在性を秘めている。その材料は三つ。一つが飛躍的に進んだ東京湾の埋め立て地を羽田空港着陸寸前の上空から眺めて思うことである。二つとして，多摩丘陵や狭山丘陵に大きく広がった東京市街地のスプロール化を分析して思うことである。そして第三には，霞が関ビル，貿易センタービル，サンシャインビルとほとんどその名称を言い当てられた東京の高層ビルが，瞬く間に数えることさえ不可能にした東京中心部の高層化の現状に直面して思うことである。この三つの状況は，50年前の東京オリンピック時とは全く違っている。

それは三つの空間の開発整序と密接している。海へのウォーターフロント，丘へのヒルフロント，空へのスカイフロントと表現できよう。すでに二度目のオリンピック誘致に成功したパリ，ロサンゼルス，ロンドンと比較して，これらの都市の公園緑地事情に劣るようでは誘致もおぼつかない。もし三都市と比較して公園整備率や，そのシステムの完成度等において劣るようであるなら，前記した三つのフロント空間を軸に，他都市にはない大都市のライフスタイルを大転換する緑の創出を約束すべきである。東京湾上には，今時のオリンピック招致を機に，地球環境時代にふさわしい「海の森」を誕生させる。このことを大会準備の前史と書き込めそうな状況にある。ならば大会後にはヒルフロントとなる多摩丘陵や狭山丘陵の一帯に新しい緑の息吹が宿ることを期待したい。約100年前にドイツのフォンザリッシュが唱えた森林美学に適う「丘の森」が構想されるならヒルフロントの改造も現実味をおびてくる。もちろん，スカイフロント空間に「空の森」を造り続けることは当然である。

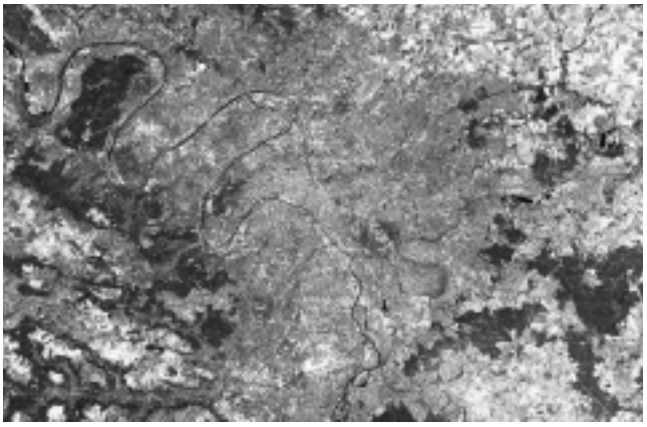
今回のオリンピックの招致に向けた活動提案では，いずれにしろ創造性がカギである。電話を発明したアレクサンダー・グラハム・ベルの言葉に「時には踏みならされた道を離れ，森の中に入ってみなさい。そこにはきっとあなたがこれまで見たことがない何か新しいものを見出すに違いありません」というものがある。模倣ではなく，何か新しいものを見つける人がオリンピックには不可欠である。クリエーティブに生き，前例主義や横並び主義を脱皮して，創造的に都市行政を展開するトレーニングの舞台をオリンピックは提供している。創造性に続くコンセプトは共感と訳せるが，一言では「なるほど」となる。アジアの都市として「なるほど」と言わせるためには，アジアモンスーン都市が共通して抱える問題解決に貢献する提案を含まないといけない。北米，南米とは違ったアジアモンスーン都市での開催という名誉を唯一東京が獲得するには，地域認識豊かなコンセプトを出すことだと思う。地球の人口の60％がアジアの人口だという事実に照らすなら，アジアで問題を解決しない限り，地球の問題は解けないことになる。

人間の発達にスポーツが役立つことは自明であるが，人間の発達に役立つスポーツの環境を整えている都市は地球上で限られている。開催地が地球のいろんな都市を回ることで，地球の全体にそのような環境が広がる。そうした意味では次の50年の都市づくりを考えることが，21世紀のオリンピック観なのかもしれない。

最後に，冒頭述べたように今年10月のコペンハーゲンでのIOC総会で開催都市が決まるが，歴史都市・コペンハーゲンでのオリンピック招致の最終プレゼンテーションは慎

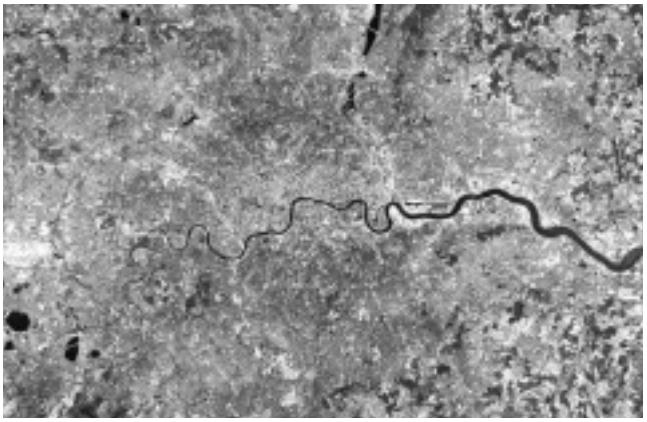


Tokyo



Paris

Los Angeles



London

重でなければならない。東京は歴史的資産や歴史的風致への出会いが豊富な都市だと言うことを表現に含めることも有効だろう。規模の違いはあるが性格は似ている。何かの巡り合わせで，歴史と緑が豊かな成熟都市でプレゼンテーションはなされる。地域における歴史的風致の維持および向上に関する法律も活用して日本全国で，東京へのオリンピック招致を進めたい。そして風格と品格のある日本の原動力となることを祈りたい。歴史は教養の原点，環境は素養の源泉と思いつつ。また環境文学というジャンルがアジア諸国で大きく浮上しつつある。自然や環境の存在や価値を文学という視点から再認識する分野で，石牟礼道子さんなどはこの代表作家であろう。国木田独歩の「武蔵野」や徳富蘆花の「ミミズのたわごと」の舞台となった東京にオリンピックを招致することには「100年越しの価値」が見いだせる。

特集／オリンピックと緑の環境資産～東京オリンピック2016に向けて～

シンポジウム

スポーツと環境都市の未来を考える

―2016年東京オリンピック・パラリンピック招致に向けたランドスケープからの提言―

日時：平成20年10月29日13：00～17：00　会場：日比谷公園 緑と水の市民カレッジ

主題講演　（敬称略）

「五輪開催と東京の水と緑の骨格づくり」　東京大学大学院工学系研究科教授　石川幹子

「2016年東京オリンピック・パラリンピック招致に向けて」
NPO 法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務次長　雑賀　真

パネルディスカッション

コーディネーター　東京大学大学院工学系研究科教授　石川幹子

パネリスト　NPO 法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務次長　雑賀　真
東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長　小口健蔵
日本自由時間スポーツ研究所所長・関西国際大学教授　佐藤由夫
㈳ランドスケープコンサルタンツ協会会長　大塚守康

挨拶　㈳ランドスケープコンサルタンツ協会副会長　細谷恒夫

閉会　㈳ランドスケープコンサルタンツ協会副会長　枝吉茂種

司会　㈳ランドスケープコンサルタンツ協会東京五輪招致支援特別委員会検討委員　有賀一郎

主催　㈳ランドスケープコンサルタンツ協会

後援　東京都建設局，NPO 法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会，㈳日本造園学会
㈳日本公園緑地協会，㈱インタラクション

協賛　㈳日本造園建設業協会関東・甲信総支部，㈳日本造園建設業協会東京支部，㈳日本造園組合連合会
㈳日本公園施設業協会東京支部，㈳日本植木協会，㈳東京都造園緑化業協会
有限責任中間法人日本運動施設建設業協会，造園・環境緑化産業振興会
東京ガーデンジュエリー2008実行委員会，NPO 法人渋谷・青山景観整備機構

●講演者・パネリスト　プロフィール

石川　幹子
（いしかわ　みきこ）

東京大学大学院工学系研究科教授，日本学術会議会員
1972年　東京大学農学部農業生物学科緑地学研究室卒業
1976年　ハーヴァード大学デザイン学部大学院
ランドスケープ・アーキテクチュア学科修士課程　修了
1994年　東京大学大学院農学系研究科農業生物学専攻緑地学博士課程　修了
2007年　東京大学大学院工学系研究科教授，現在に至る
緑の学術賞・日本都市計画学会賞など，多くの賞を受賞
主な著書：「都市と緑地」（岩波書店），「流域圏プランニングの時代」（技報堂），「21世紀の都市を考える」（東京大学出版会）など

雑賀　真
（さいか　まこと）

NPO 法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務次長
1983年　東京都入庁
その後，勝山学園長・小平児童相談所長・福祉局子育て推進課長など，児童福祉部門を歴任
2004年　知事本局企画調整課長
2006年　東京オリンピック招致本部総務課長
2007年　現職に至る

小口　健蔵
（おぐち　けんぞう）

東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長
1973年　千葉大学園芸学部卒業，東京都入庁
その後，台東区公園課長・都人事委員会副参事・建設局公園建設課長・建設局西部公園緑地事務所長などを歴任し現職に。
2000年　経済がマイナス成長や低成長に喘ぐ時代における公園行政のあり方の模索のなかから「公園経営」の必要性について日本造園学会で提起。その後も公園経営について積極的に発言し，今日のパークマネージメントへの流れをリードした。
2003年　企業的手法を活用して民間資金を集め，まったく新しい発想による公園の賑わい創出を目指した。
日比谷公園100年記念事業をプロデュースし，6億円を上回るイベント投資を呼び込み成功させた。思い出ベンチの発案者でもある。
現在，東京都の「緑の10年プロジェクト」推進役である。

佐藤　由夫
（さとう　よしお）

日本自由時間スポーツ研究所所長，関西国際大学人間科学部ビジネス行動学科教授
1975年　青山学院大学経営学部卒業
その後，松下電器産業㈱，㈱福岡スポーツ研究所（日本スポーツ環境研究所）を経て，
1997年　㈲日本自由時間スポーツ研究所設立
2008年　関西2008国際大学人間科学部（ビジネス行動学科スポーツマネジメント専攻）教授
日本生涯スポーツ学会副理事長，日本人間工学会評議員，元国際余暇スポーツ施設研究協会（IAKS：本部ドイツ・ケルン）日本連盟事務局長など

大塚　守康
（おおつか　もりやす）

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会長，都市環境デザイン会議副代表幹事
1965年　千葉大学園芸学部卒業，㈱近代造園研究所入社
1967年　㈱大塚造園設計事務所設立
1989年　㈱ヘッズに社名変更
2007年　取締役会長に就任
1978年から日本造園設計事務所連合理事，日本造園コンサルタント協会理事，㈳ランドスケープコンサルタンツ協会理事，副会長等を歴任，2004年から現職。
大阪芸術大学（平成9年3月まで），立命館大学（同年4月から）非常勤講師，日本造園学会賞・建設大臣表彰・黄綬褒章などを受章

■開会挨拶

本日は110名を超える皆様にお集まりいただき，ありがとうございます。

さて国際オリンピック委員会（IOC）は2008年６月４日にアテネで開催した理事会で2016年のオリンピック開催候補都市として東京，シカゴ，マドリッド，リオデジャネイロの４都市を選びました。東京は第１位だったのですが，課題は支持率の確保でした。決定には支持率は，70％以上が必要です。

近年，異常気象，気候変動が続く中で，2007年度のノーベル平和賞に米国のゴア元副大統領が選ばれたことは，地球温暖化対策の国際的重要性を示しています。2012年オリンピック開催都市のロンドンでは環境と市民重視の方針で，大会終了後には８万人収容の主会場を２万５千人規模に縮小，選手村は売却，オリンピックパークも市民に開放するとのことです。

東京は厳しい競争を勝ち抜かなければなりません。2009年２月にIOCに「立候補ファイル」を提出し，IOCは世論調査と現地調査を実施します。オリンピックのコンセプトとレガシーが評価されます。1964年の東京オリンピックは多くの遺産を残し，戦後の日本復興に寄与し人々に大きな感動を与えました。

東京は先進都市と比較して公園面積が少ない現状にあります。環境負荷の少ない都市の実現，水と緑に包まれた美

しい環境都市を実現する観点から,街路樹100万本構想や校庭芝生化を始め多くの施策が実行されつつあります。

本日のシンポジウムでオリンピック開催を契機に環境都市の未来についてともどもに考え,「レガシーとして何を残すか」の議論を深めたいと考えています。CLA と造園関係のグループは，昨年に引き続き今年も，日比谷ガーデニングショウでオリンピック花壇の作成など，応援を続けております。われわれ造園関係のグループは，これからの東京のまちづくりに役立てられることを望み「支持率」アップにも貢献できることを願って，開会のご挨拶と致します。

■主題講演（Ⅰ）

五輪開催と東京の水と緑の骨格づくり

石川　幹子
（東京大学大学院教授）

本日はシンポジウムにお招きいただき，また多数の方々が集まって下さり，ありがとうございました。私はオリンピック誘致活動については深い知識がありませんが，造園の世界で計画，設計，運営，調査，研究など幅広く関わってきました。東京を何とかしなくてはという思いが強く，水と緑のインフラ整備のきっかけとしてオリンピック誘致を推進することは適切と考えております。

東京は歴史の中で，関東大震災後の復興事業以後，営々と環境を整備してきました。オリンピック招致により「何か」ができるはず，ただその「何か」がまだ見えて来ない。率直に言って国際社会にアピールする力強さが，まだ無いと思います。

先週，北京を訪問しました。主会場の「鳥の巣」周辺は異様な熱気に包まれており，観光地化しています。こうした斬新な建築を受け入れた中国の懐の深さを感じました。会場計画では村を３つ動かして広大な緑地帯を作りました。北京100年の計，立派な遺産といえます。

東京でもグリーンベルトは，過去の構想の遺産として残っているのです。私たちはこれを掘り起こして事業化し，私たちによる遺産として未来に残したいものです。そうした構想の，ホワッとした絵が欲しい，ただしそれは緻密なプログラムに基づくものでなければならない。それがコンセプトなのです。

「見えない目標」と書きました。北京では目標が見えています。東京は,「地球環境」と「文化」この２つをキーワードとして，いっしょに考えていきましょう。

東京における水と緑の骨格づくりの経緯を示します。ここ日比谷公園も立派な遺産です。本田静六先生ゆかりの「首かけ銀杏」もあります。過去それぞれの時代に努力を傾注してきたのですが，それらの遺産を必ずしも正しく守ってこなかった。たとえば芝公園を今後どうするかは，課題です。

災害について。関東大震災のとき，江戸時代の緑が火防線となって多くの命が救われました。米国シカゴでは1873年の大火のあとパークシステムが構想され実現しました。神戸の長田地区では小公園が火を止めて，黒こげに焼かれたクスノキは，しかし翌年胴吹きで芽を吹いていました。関東大震災後に植えられた横浜のクスノキは今では立派な遺産になっています。緑は大きな文化的意味を持っているのです。代々木の練兵場跡もそうです。

大きな構想を掲げて，たとえ一部でも実現すれば，立派な成果となります。何もしなければ，１％も残らない。

1926年に風致地区を導入。この制度のもろさを実感しています。1932年に東京緑地計画。グリーンベルトは地域制緑地ではなく，営造物だったのです。重要なところから土地を買い上げ，その一部が残されています。これは小合溜，今の水元公園です。グーグルで俯瞰して感動しました。江戸川，中川そして小合溜，公園は野鳥の宝庫です。その南に三菱製紙工場の跡地があり，葛飾区は大学誘致とともに公園づくりを行うので，参画を求められた私は「都市再生型公園」づくりを提案しました。これからの公園づくりの大きなテーマになるでしょう。

1930年代の東京緑地計画を大切にしましょう。こうして各地域を見ると，見えないものが浮かび上がってきます。東京の内部は公園づくりと緑化で，周辺部は緑地地域で構成されており，全体としては挫折しても，水元公園のような遺産は残っています。

ここまでは総論，以下具体的に説明します。私たち，造園界の皆が個別に取り組んでいることを総合したら，かなりスケールの大きなプロジェクトになると思うのです。

■江戸・東京の水と緑の生命線の復活，玉川上水の再生

江戸時代の水網図を掲げました。その中で玉川上水は，まさに江戸の生命線だったのです。その多くの部分が現在は埋設されており，地表には見えないのですが，オリンピックをきっかけにその一部でももう一度光を当てることができればと願っております。玉川上水の調査研究には30年も関わってきました。都内のいろいろな庭園が，玉川上水とつながっているのです。現在，千代田区に残る井戸の水質調査を実施中です。

新宿御苑のへりに内藤新宿分水を再生しようとしたのですが，そこに流す水がない。ところが御苑の中を国道が通る際に緑を守るべく掘ったトンネルに湧き水があるというので，国道事務所と環境省の協力を得て，その水を流せることになり，現在実施設計中，来年度には工事にかかります。花園小学校の生徒さんたちもボランティアで，このプ

ロジェクトに協力して下さっています。水の一部は御苑の樹林の散水にも利用します。トンネルの影響で地下水位が変化し，樹林の活力が無くなり林内の植生も貧弱になっているのです。さらには下水の三次処理水も欲しいのですが，お金がかかるそうです。

玉川上水の余水があるので，そのルートを復元し水と緑の回廊を作って欲しい。千駄ヶ谷の国立競技場，今は閉鎖されている正門前にも水を流し，表参道から宮下通り，渋谷では渋谷川を再現してつなげたい。かつて渋谷で，多摩川礫層の現場を視察したら，本当に水浸し，つまり水道があるのです。そういう土地の歴史は消せないのです。水と緑の回廊づくり，都市の骨格づくりには押さえるべきツボがあり，玉川上水はまさにそれです。大学は学術調査の労を惜しまずしっかりとデータを作り，提案をする。提案は自由であり，その一部でも実現すれば良いのです。

■都心における水と緑の再生・江戸の河岸の再評価

川と川沿いの土地，水運の歴史を大切にしましょう。また，毛細血管のような都市の水路を大切にしましょう。京橋で調査をした際に「京橋川を復活したい」との地元の声を聞きました。土地への愛着，強いこだわり，それらをていねいに取り上げるべきです。

■臨海に海の自然を再生する：
人の暮らしと一体になった海辺の再生

東京ベイエリアの調査に基づくエコロジカルコリドーのあり方を示しました。臨海部の森づくりにしても，若洲の森づくりが話題になっていますが，既に私たちは故・本間啓先生のもと，50年かけて基礎的な調査から取りくんできたのです。造園界のそうした活動を広報し，コア，コリドー，マトリックスなどを明らかにして，もっと造園家が活躍するべきです。

■東京の顔パレスゾーンの再生

皇居の周辺には公園緑地が集積しており，そのボリュームはロンドンやパリにも劣りません。ただしそれらの管轄は別々で相互の連携が図られず，高速道路で分断されたり，江戸城時代の堀もかなり失われています。

私たちは東京農工大学教授の亀山章先生を中心に（NPO）東京セントラルパークを組織して，これらの公園緑地の一体整備と利用また復元を提案しております。たとえば国会議事堂はセキュリティに配慮しつつも前庭を開放して，もっと開かれた姿にならないか。ベルリンの例を示します。上智大学が占用している堀は借地期限が切れたら市民に開放できないか等々，ランドスケープの理論を東京の中心で展開することは大切なことです。

■最後に：

優れた先例としてボストンの「エメラルドネックレス」を以下にご紹介します。

■地球環境都市　東京へ

江戸・東京400年の歴史的資産に光を照射し，文化としてのランドスケープを再生するべき時です。オリンピック招致の主たる理由として「地球環境都市・東京」をめざしていることを世界に伝え，その具体像を明確に示すなら，IOCによる開催都市の最終選考にあたっても十分な理解と共感を得られると考えています。

■主題講演（II）

2016年東京オリンピック・パラリンピック招致に向けて

雑賀　　真
（特定非営利活動法人 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務次長）

ご紹介いただいた雑賀でございます。石川先生から大変に示唆に富むお話をいただき，ありがとうございました。私からはオリンピック招致の状況と課題そして今後のスケジュールと活動概要をお話します。

招致の条件は２つです。

①いかに良い計画を立てるか。

②IOC 委員115名の過半数の推薦を得られるか。

何のためにオリンピックを招致したいのか？　日本ではこれまで夏季大会は東京で，冬季大会は札幌，長野で開催しました。それぞれに社会を，人を変え，世界に影響を与える効果があったのです。こうした，オリンピックの持つ力を次世代の日本人に経験して欲しい。

1964年の東京大会について考えてみましょう。

10月10日の開会式，秋晴れの日でした。式場内外に人があふれ，空にはブルーインパルスが五輪を描きました。昭和20年８月６日，広島原爆の日に生まれた坂井青年が最終の聖火ランナーとして走り聖火台に点火しました。戦後日本の復興の歴史的転換期でした。

閉会式では参加した世界の人々が肩を組んで入場しましたが，これは東京オリンピックが初めてでした。また，パラリンピックはローマ大会から始まりましたが，オリンピックと一体化したのはこれも東京大会からでした。世界の平和，人類の平等への願いを具現化したのです。当時のメインスタジアムは国立霞ヶ丘競技場でした。残念ながら走路の数やサブグラウンドについて現在の国際競技大会の基準を満たさないので，2016年用には晴海に新設します。国立代々木競技場，丹下先生の設計はいまでも斬新です。

さて，今の時代はなんと言っても「環境」が最大の関心事です。東京，日本から地球社会への贈り物として，新しい都市モデルを提案し地球環境を再生することを提案します。

東京都は先に「10年後の東京」としてビジョンを公表しました。８つの目標が掲げられており，中でも環境への取組みは最も大きな課題です。

オリンピックで環境について取り上げたのは1994年からで，オリンピック憲章に「環境」の項目が加わりました。1999年のオリンピックムーブメント・アジェンダ21にも含まれています。2000年のシドニー，2006年のトリノ，2012年のロンドンではそれぞれご覧の目標を掲げております。

2016年に向けて東京では「東京オリンピック環境ガイドライン」を策定，「カーボンマイナス･オリンピック」緑と水の都の復活を提唱しております。オリンピックを実行するにあたり発生する CO_2 を省エネ対策で減少させ，さらに緑でより多く固定しカーボンマイナスを図ります。先ほどの石川先生のお話にもありましたが東京都心は皇居を中心に北の丸公園，千鳥が淵など緑が豊かで，四季おりおりに花が咲き乱れます。過去からの遺産に恵まれております。

「結び」のマークをご覧下さい。日本と世界を結ぶ，子どもたちと未来を結ぶ，いろいろな「結び」，和の精神を古来よりの水引をモチーフに，オリンピックの５色でデザインしました。新たな価値を創出し都市の地球の未来を拓き，子どもたちに引き継ぎたいと願っております。

■オリンピックの開催状況について

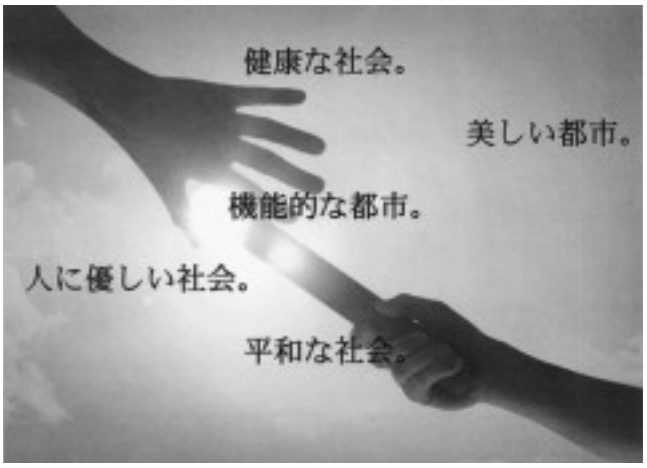
1964年東京大会からの開催地を表にしました。オリンピックの５つの輪はアジア，ヨーロッパ，アフリカ，オセアニアそしてアメリカの５大陸を表しております。北米，南米は合わせて１つの大陸として扱われています。この中でアフリカはまだ開催されておりません。同じ大陸で連続開催の事例は無いが，１回おきは事例が多くあり，北京の次の次が日本でも何ら不自然ではありません。

開催地の選定にあたり IOC は，それぞれの都市のプラス面とマイナス面の両面を検討するでしょう。マイナス面と

は①テロ，②政治的軋轢，③経済的不安定性そして④スキャンダルの可能性等でしょう。それぞれ，過去に問題発生の事例があります。こうした危険性が最も低い候補地，それは東京ではないでしょうか？　オリンピックは世界最大のイベントで，パラリンピックと合わせて１万５千人の選手団が集結します。東京はこのイベントを安全に支える十分な力があります。

■オリンピックと日本

来年は嘉納治五郎先生がアジア初のIOC委員に就任されてから100周年に当たります。先生は柔道家として有名ですが東京教育大学の学長を長く務めるなど教育家としても著名で，クーベルタン男爵とも深い親交がありました。1940年の東京オリンピックは戦争の影響で中止，24年後の1964年に実現。その後名古屋，大阪が立候補したがソウル，北京に敗れました。冬季オリンピックは札幌，長野で開催さ



回	開催年	開催地(国)	回数	パラリンピック
18	1964	東京(日本)		第2回
19	1968	メキシコシティー(メキシコ)		
20	1972	ミュンヘン(西ドイツ)		
21	1976	モントリオール(カナダ)		
22	1980	モスクワ		
23	1984	ロサンゼルス(アメリカ)	2回目	
24	1988	ソウル(韓国)		第8回
25	1992	バルセロナ(スペイン)		第9回
26	1996	アトランタ(アメリカ)		第10回
27	2000	シドニー(オーストラリア)		第11回
28	2004	アテネ(ギリシャ)	2回目	第12回
29	2008	北京(中国)		第13回
30	2012	ロンドン(イギリス)	3回目	第14回
31	2016	「東京(日本)」	2回目	第15回

れましたが夏季は44年間，日本で開催されていません。2016年に52年ぶりの開催を祝いたいものです。

今後の招致活動について。2009年２月に575ページの「立候補ファイル」をIOCに提出します。その後IOCは世論調査を行い，４月14―20日に現地調査が実施されます。東京の良さを見ていただきたい，石川先生のお話にあった水元公園や玉川上水も良いかもしれません。

2008年６月４日に候補７都市から４都市に絞られた段階では①東京，②マドリッド，③シカゴ，④リオデジャネイロの順でしたが，最終的には，わかりません。オリンピックは７月29日―８月14日，パラリンピックは８月31日―９月11日の間に行われます。

■東京の競技会場計画の特長について

図に示すとおり，射撃を除くすべての会場が半径８kmの範囲に納まり，大変コンパクトです。なお，サッカーの予選は国内各地で行われます。

東京オリンピック，パラリンピックがもたらすもの，オ

投票行動
2012年オリンピック大会

	都市名	1回目	2回目	3回目	4回目
立候補都市	ロンドン（イギリス）	22	27	39	54
	パリ（フランス）	21	25	33	50
	マドリッド（スペイン）	20	32	31	
	ニューヨーク（アメリカ）	19	16		
	モスクワ（ロシア）	15			
申請都市	ライプチヒ（ドイツ）				
	イスタンブール（トルコ）				
	ハバナ（キューバ）				
	リオデジャネイロ（ブラジル）				

リンピックで日本はどう変わるかについては，資料をご覧ください。

■経済波及効果について

競技施設31施設のうち21施設は既存施設を活用し10施設は新設します。ハード，ソフト合計の直接の投資効果は約１兆３千億円，これにはインフラ整備は含まれません。これに１兆５千億円の経済波及効果を加えると２兆８千億円に達します。

開催都市選定はIOC委員115名の投票によります。ヨーロッパの委員が多いです。アフリカ勢が鍵かもしれません。

東京オリンピックが開催されると世界各国の競技団体は日本全国で合宿することになります。サッカー・ワールドカップの際に国内各所で選手団と住民との心あたたまる交流が伝えられました。2008年の北京オリンピックでも相当数の国は日本各地で合宿したのです。都民のみならず国民全体の支持を戴けるように，招致委員会は全国で活動しており，各地の有名なお祭りにも参加しております。皆様には本年もこの日比谷公園で，子どもたちとともに招致支援花壇を作ってもらい，感謝しております。2009年10月２日の決定に向けて，引き続き応援をお願い申し上げます。

■パネルディスカッション

スポーツと環境都市の未来を考える

コーディネーター　石川　幹子　　小口　健蔵
雑賀　　真　　佐藤　由夫
大塚　守康

石川（コーディネーター）　ではこれからパネルディスカッションを始めます。パネリストのうち雑賀さんを除き，小口さん，佐藤さんそして大塚さんに短くお話をいただき，そのあと討論に入ります。また会場の皆様には本日のシンポジウムに関して一言ずつ提案，思いを記していただいており，それは後ほど私からお伝えします。

小口　これからの東京，どういう緑の都市を作るかについて，東京都の公園部局では6つの柱を掲げておりますが，その一部をご紹介いたします。

ひとつは，東京ベイエリアの緑化です。石川先生の講演にもあったように，50年来の歴史があります。ここに80 haの「海の森」を整備中ですが，これは港湾局が所管しています。60―70年後に明治神宮のように森が育てば，ここを先端として都心に緑の風を送りたいと考えています。

続いての柱は，街路樹倍増計画です。現在46万本の街路樹を100万本にしたい。まだ植わっていない場所，これから整備する場所に積極的に植栽します。

また，子どもたちにもっとのびのびと遊び学べる場を提供するべく，300 haの公園づくりと合わせて校庭の芝生化を進め，計1,000 haの緑を創出することもひとつの柱としております。

それから，都民に参画いただく活動も柱として位置づけています。参画の方法は，智恵や労力，税金ばかりでなく寄付金もいただいて，皆で緑のまち作りをしましょう。日

（東京都ホームページより）

比谷公園100周年を契機に「思い出ベンチ」制度を創設し都民の寄付金でベンチ配置を企画しました。１基15万円ですが皆様が喜んで応募して下さり，日比谷公園，井の頭公園等にこれまでに合計600基以上，金額にして１億円が配置されています。そういうムーブメントを盛り上げたい。

今回のシンポジウムはCLAが率先して開催して下さったもので，誠に感謝しております。

こうした６本の柱とオリンピック招致との関連を考えてみましょう。昨年のシンポジウムで青山元副知事は環境都市・緑のまちづくりを提唱されました。かなり以前から公園部局では検討を積み重ね構想していたことでもあり，財政面の制約がありますがいろいろトライアルしたいと存じます。オリンピックが万が一来なかったら？　もしそうなっても，環境都市への取組みは止めるべきではありません。

先ほどの雑賀次長のお話で，８つの柱の第１番目が「水と緑の回廊づくり」だったのは本当に嬉しいことです。水と緑が都政の第一に取り上げられたのは私も35年間都庁に勤務していますが初めてのこと，このチャンスを生かしたいものです。先輩諸氏また先生方の永年の努力が実りつつあるのです。私は先ごろ環境緑化新聞に「世界的視野で緑のまちづくりを」と寄稿しましたが，江戸・東京の緑の足跡を辿り残存資源を発掘して水と緑のシステムを育てよう，まだ可能性はあるとの石川先生のお話には感銘を受けました。東京の，日本の水と緑のシステムについて考える好機です。先生にはますます研究を進めていただきたいと存じます。

こうした提案は客観的にも評価されることが大切です。他のオリンピック開催候補都市はどのような状況か？　昨年夏，第１のライバルと思われるシカゴを私的に訪問しました。第１印象として「すばらしい。」と感じました。2004年に作られたミレニアム記念公園は税金に加えて市民の寄付金を大きな財源としています。ミシガン湖畔には美しい公園が連続し，自転車で走ってみましたが水泳場，ヨットハーバーも整備され本当に市民の憩いの場所です。東京に戻って考えました。世界の各都市が，それぞれの歴史，資源を大切に都市づくりの構想を練っています。東京はさまざまな資源と可能性に恵まれているので，これ等を生かして水と緑のまちづくりに頑張って参りたいものです。

佐藤　私はスポーツ振興の立場からお話いたします。ここにメダルを持参しました。1964年の東京オリンピックのとき私は中学２年生でしたが，ボランティアとしてスタジアムの国旗掲揚に参加した，そのときいただいたメダルです。お回しするので，どうぞご覧ください。

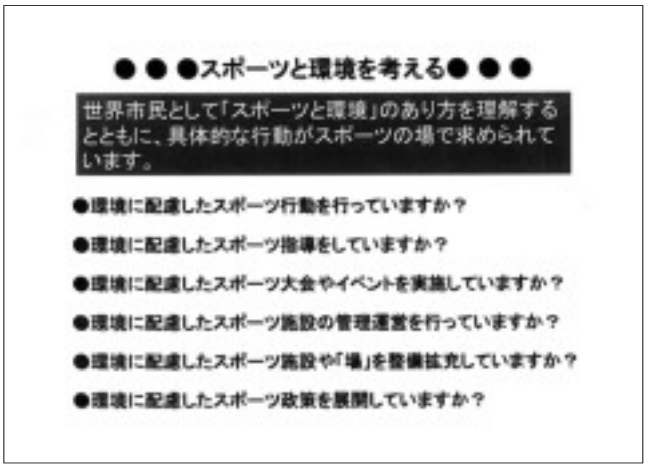
1964年の東京オリンピックは，ママさんバレーや少年野球，やがてはＪリーグもそうですが，まさに日本のスポーツ振興のきっかけになりました。2016年のオリンピックをさらなるスポーツ振興に結びつけたい，国民の誰もがスポーツを楽しみ健康を保てることが願いです。

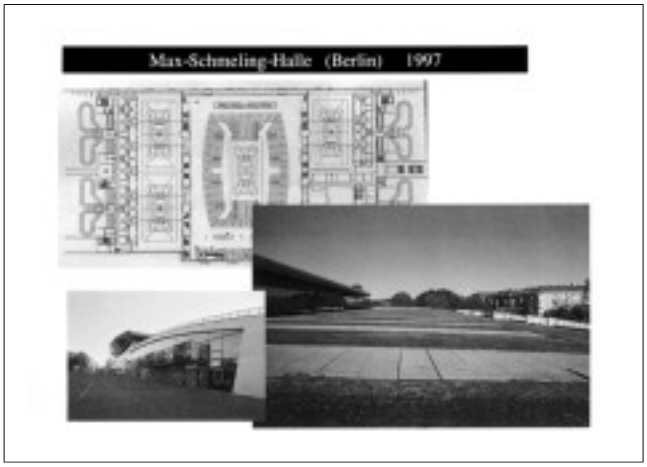
オリンピックの目的はスポーツ振興や世界の平和に加え，環境が新しいテーマです。72年ミュンヘン大会では環境に配慮した施設づくりが行われました。ここはもと飛行場でしたが，城から水を引いた人工池と大戦中の瓦礫を積み上げた緑の丘は，広大なオリンピック公園として市民の憩いの場となっています。日本の札幌冬季オリンピックでは支笏湖畔の恵庭岳に滑降コースが作られたが，緑化により今は見事に修復されています。長野でも滑降コースの始点選定に慎重な配慮がありました。日本オリンピック委員会（JOC）のホームページには「スポーツと環境」の掲示があります。2016東京招致にあたっては「カーボンマイナス」を掲げています。

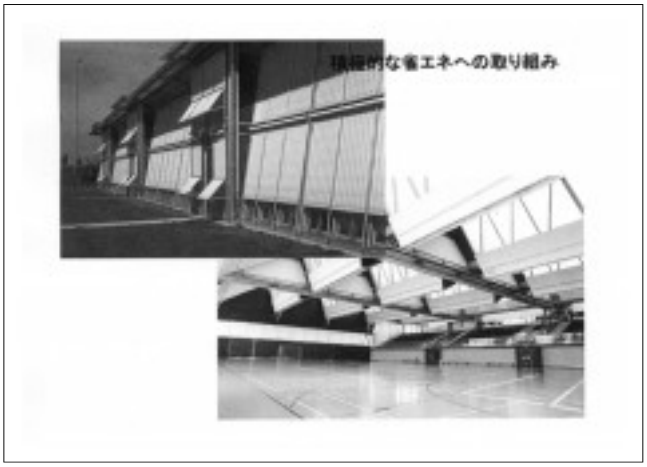
使用済みのテニスボールをそのまま廃棄せず，小学校の机や椅子の脚の下に取り付け，騒音防止や滑り止めに使用したり，将来産業廃棄物となる人工芝のピッチづくりに配慮するなど，いろいろな取組み事例があります。ベルリンの大きなスポーツホールでは，屋上緑化を積極的に取り入れており，地域体育館でも壁面緑化や自然光の採りこみ，外断熱などをして省エネルギーを図っております。

地球環境に優しい水と緑とともに，都市にスポーツ施設，スポーツ活動があふれて欲しい。ジョギング，ウオーキング，ヨット，カヌー，ボートなどが行える，水と緑とスポーツの都市・東京に世界のスポーツ選手，世界の人々を招き，ますますスポーツが盛んになるとともに，世界平和そして地球環境を守る活動につなげたい，それが願いです。

大塚　1964年の東京オリンピック，私は大学３年生でした。国道246号の拡幅や代々木の競技場の建築工事を眺め，





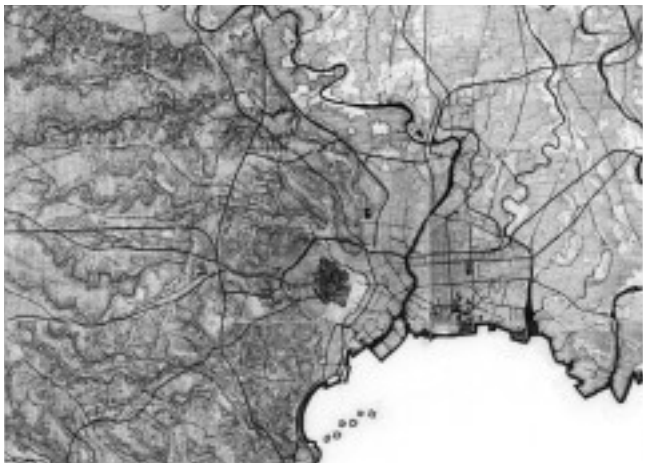


ワクワクしたものです。2016年のオリンピックは環境づくりのきっかけになることでしょう。ランドスケープ界として，これからの東京のあり方を考えたいと存じます。

ただし，これから10年か100年かでは目標の大きさや広がりがかなり異なります。明治末期の国土地理院の地図に着色した手書きの図面をご覧下さい。当時の地図のほうがコンターが明確なので，あえて使用しました。荒川放水路も東京駅も，まだありません。

都市の骨格は地形です。東京の大地を刻んでいるのは石神井川水系，神田川水系，石川先生のお話にあった渋谷川水系，目黒川水系。大きくは多摩川，隅田川です。この谷沿いの土地を100年後にはすべて公園緑地にしたいというのが，私の夢です。

今，「風の道」を作ろうという提案が為されています。青梅街道，甲州街道そして今回のオリンピックでも重要なルートとなる国道246号の大山街道，中仙道など主要幹線は皆，台地上にあり，大きなビルが立ち並んでいる。一方，谷筋には民家や中小のビルがあります。台地上の容積率を



上げれば50年，100年かけて谷筋の容積を吸収できるので，そこを緑化する。皇居の吹上御所にはかつての江戸の動植物が全部保護されているとのこと，それの滲み出しを期待できます。

下町では川や運河の敷地内に止まらず，沿川のかつての水田や畑も，たとえば落葉樹林にしたい。環境が人々の生活を変えます。CO_2 の量云々だけではランドスケープの仕事にならない。Valley という言葉，日本語の谷は鋭角のイメージがあるが欧州では斜面にはさまれた広い空間を指します。緑の中にスポーツクラブも老人の憩える施設もあり，エコカーやトラムが走っています。そんな情景を描いてみました。建築物の寿命はせいぜい50～60年，人口減少にも上手に対応しなければなりません。

今，ランドスケープ界は萎縮しています。われわれ自身が50年後，100年後の東京を描いて提案し，役所をバックアップしていきますので，公官庁の方々にも是非，指揮をとっていただきたい。その第１歩が2016年のオリンピックだと考えています。

石川　100年の計についてのお話でした。さて，私たちは次世代を担う子どもたちに何を残し伝えるべきか，雑賀さんいかがですか？

雑賀　第１は健康を保てる環境です。成人になっても健康な体であるように。たとえば日本では水道の水を飲むことは普通ですが，海外では必ずしもそうではありません。こうした環境をちゃんと保持すること。第２はオリンピックの価値をどのように伝えるか，です。今の子どもたちは日本中どこでも，パソコンゲームや携帯で遊び，外に出て遊ばない。先般の北京オリンピックで谷亮子選手の頑張り，室伏選手の正々堂々たる戦いぶりを観戦し，誰もが感動しました。こういう感動を子どもたちが身近に感じ，スポーツのすばらしさを感じてもらいたいのです。３人のパネリストのお話をうかがい，子どもたちが健康・健全な心と体を作るための鍵は緑と，緑に包まれた広場や遊び場であることを実感しております。

石川　ありがとうございました。さて今回は「全員参加型シンポジウム」ということで，会場の皆様から一言ずつメモをいただいているので，ここでご紹介します。「水」と「緑」についてのご意見が多いですね。「地勢を読みとった水と緑によるうるおいと品格あるまちづくり。」これは大塚さんのご提案に沿っています。「緑による爽やかな風を。」私は四川省の地震の復興に関わっており頻繁に中国を訪問しています。オリンピックの期間は北京の空はきれいでしたが，このごろまたどんよりしています。空気と水だけはお金では買えません。「ヒートアイランドの解消を。」これも緑の風のこと。「千川上水，北沢川もある。」というご指摘，「レガシーである神宮外苑を大切に。」，「各種施設の筑波などへの移転跡地の緑化を。」というご意見もあります。「北京オリンピックの光と影の両面を考えよう。」とのご意見もあります。

先ほどシカゴについてのお話がありましたが，米国では Parks & Recreation，公園とレクリエーションを一体に捉えています。いろいろなご意見の中で，東京はどうしても

コーディネーター　石川幹子氏

「水」が弱いと私は感じていますので，小口さん，都の取組みの実態を教えてください。

小口　先ほどお話した6つのプロジェクトをまとめるに当たり，水の問題についてもずいぶん議論しました。はっきり言って，上流から下流まで包括的に水を考える人はいないのです。多摩の山の森林に降った雨が多摩川になり，これを羽村で取水して江戸市中に送った。現在の管理者は①水道局，②下水道局，③河川局，最終は④港湾局。⑤公園部局も関わります。後楽園の水は神田上水，六義園の水は千川上水から引いており，また上水に戻ります。それぞれがパーツを，効率よく管理していますが，全体を総合的に見ている人はいません。これは都庁だけのことではなく全国が縦割りなのです。

西部公園事務所長として井の頭公園の管理をしていた折に近隣住民から「池の水が汚れている。」との指摘があり，「皆さんが雨水を地下に戻して下されば地下水が湧くのです。」と提案しました。三鷹市，小金井市等が努力して，かなり湧水が復活し池の水がきれいになりました。公園の中だけではなく環境のシステムを配慮し，いろいろな立場の人々を繋ぐ努力が必要，それを市民に伝えともに考え行動を誘発する，打てば響くのです。公共サイドも総合的な提案をする時代です。

発信力のある人を育てることが大切です。海の森についてもそう感じます。私も努力するが，都議会でも市議会でもどしどし発言し主張して，雰囲気を盛り上げましょう。

石川　住民とともに考え行動し，サポーターを増やしましょう。佐藤さん，子どもとスポーツの関係についてお話しください。

佐藤　ゲーム遊びのせいだけではありませんが，子どもの体力が低下している。でも子どもたちはスポーツやオリンピックに興味はあり，たとえばフィギュアスケート選手が活躍すると，その教室の加入者が増えています。ゲームよりスポーツのほうが面白いと分かれば，やみつきになる。

戸外で，水と緑の中で自由に遊べる環境を作りたい。ドイツでは子どもたちがカヌークラブに入って水に親しみ，源流まで川を遡る活動があり，水流を全体的に捉え自然の大切さを実感する。「カヌーイストは自然環境の良き理解者」というメッセージがあります。日本の子どもたちは一般に，水に近づけない。日本は水が豊富なので，逆に大切さに気がつかないのかも知れません。東京都もスポーツクラブ育成の方針のようですが，子どもたちにスポーツの面白さと深みをもっと伝えたいものです。

石川　何らかのモデル，具体的行動が必要なのですね。

雑賀　都では今年から「スポーツ教育推進校」を指定，小・中・高の120校で体育だけでなく国語や英語等の授業でもスポーツを意識した指導に努め，また「オリンピック副読本」を作って配布，これは希望があれば推進校以外にも配布しています。

日本にはラジオ体操や運動会を地域，家族さらに学校が一体となって行う良き伝統があります。東京の街中で開こうとしているオリンピックについて，CLA は3つ折のリーフレットをお作りになりましたが，このようにいろいろな

パネリスト　左から，大塚守康氏・佐藤由夫氏・小口健蔵氏・雑賀真氏

ご提案をいただきたいと願っております。

大塚　都市インフラのキャパシティが大きく街中でオリンピックを開催できることは，まさに東京の特質です。新しいスポーツ施設も取り込んで東京のエネルギーはさらに大きくなるでしょう。水と緑の整備とあいまって全体が活気づくことが望まれる。そのためには公園，道路，河川等が分業ではなく総合的視野に立って計画・整備されるべきでしょう。

石川　何か一歩踏み込んだ，具体的なプランが欲しい時期ですね。手がかりが無いと思いが伝わらない。

雑賀　今はまだ選考される段階なのですべてを明らかにできないが，プレゼンテーションで最善を尽くしたい。東京では大改造ではなく既存のものを生かしつつ，環境に配慮し水と緑を改良して計画し説明したいと考えております。

佐藤　今あるものをどう利用するか，都心部の緑の効果を発揮させるための改良と活用方法にも焦点をあてるといいと思います。スポーツにマッチした水と緑がほしい。

石川　大塚さん，CLA のリーフレットにある「風の道」については……。

大塚　10年後の構想と50年，100年後の構想とは違います。今はとりあえず何ができるかを考えるが，自分としては将来に向けて「風の谷」を提案したいのです。

石川　夢を繋いでいける戦略を立てると力が出るのでしょう。相手をよく知り，際立った差別化を図って分かりやすく説明したい。マドリッドの国際コンペで１等になった経験があります。比較的貧しい人々の住む，森も無い地域なので，下水の処理水を利用して川を復活し，150年かけて環境を再生することを提案したのです。

最後に一言ずついただきます。

雑賀　シカゴに対しては，実質的な諸施設の質，安全性，公共交通の利便性を訴えます。支持率アップについては経済波及効果や緑の環境づくりの説明が大切でしょう。あと，日本ならではのおもてなしの心の表明，海外の方々が日本に来て良い印象を持って下さっている，そうしたことが大きな力になります。

小口　先ほどご紹介したミシガン湖は泳げるほど水がきれいだし，緑の空間でスポーツが行える。東京湾で泳げればアピールするでしょうね。シカゴのメインストリートでは企業参加の花壇コンクールが行われていた。日本でも日比谷ガーデニングショーを実施し，さらには丸の内とともに「東京ガーデンジュエリー」として，公共と民間とが一体となってまちの公園化を図っています。先日の土曜・日曜にメディアセンター横で「東京大茶会」を開催したところ，２日間で１万数千人が参加した。東京にはそういうことのできる場所はたくさんあります。

佐藤　水と緑と一体に，スポーツ振興を図り，精神と肉体を育てましょう。木を大切に育てると同じように，スポーツそして人を大切に育てたい。

大塚　世界的な混沌の中で，安心安全が求められています。東京の緑は都市全体としては十分ではないが，皇居周辺，明治神宮周辺には歴史文化に育まれた緑があるので，私たちはこれを都市全体に広げていきたい。将来に向けてのビジョンが必要です。

石川　先日，皇居吹上御苑の中を拝見して，感動しました。昔の武蔵野が生きています。その良さ，要素を導き出したい。身近なものを生かし大事にして育てていきたい。皆で一緒に考え，行動しましょう。今回のシンポジウムが，そういうきっかけになれば誠に幸いです。これでパネルディスカッションを終わります。ご清聴ありがとうございました。

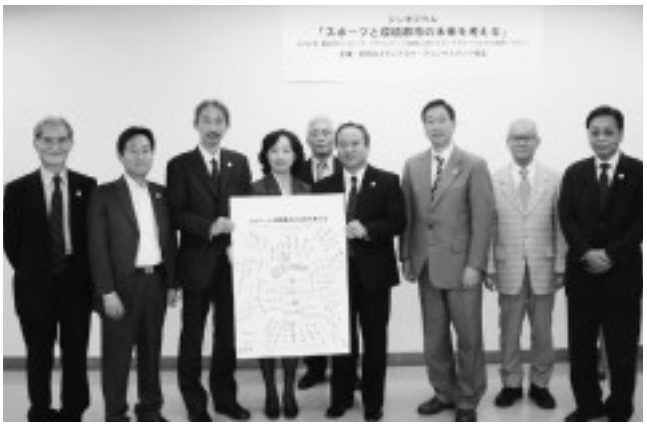
司会者　コーディネーターをお務め下さった石川先生またパネリストの方々，長時間ありがとうございました。CLA 副会長，関東支部長の枝吉茂種から閉会挨拶を申し上げます。

■閉会挨拶

本日はシンポジウムにお集まり下さり，まことに有難うございました。石川先生，雑賀様ご講演ありがとうございました。パネリストの方々にも感謝申し上げます。

私たちは石原都知事がオリンピック招致を表明された当初から招致支援を表明し，いろいろな活動を展開する中で技術的提案も行ってまいりました。これからも造園界全体に呼びかけて招致支援協力したいと考えております。このことが東京の水と緑の環境改善に役立ち，併せて私たちの活性化にも繋がればと願っているのです。

本日は皆様，本当にありがとうございました。これにてシンポジウムを閉会いたします。



特集／オリンピックと緑の環境資産～東京オリンピック2016に向けて～

長野オリンピックアーカイブス

―自然との共存をテーマにした冬季オリンピック―

宮入賢一郎*

1998年２月，20世紀最後の冬季オリンピックが長野で開催された。開催都市が長野市に決まった1991年６月までの招致期間，開催直前までの計画樹立と工事期間，そして会期中と，バブル経済の崩壊期にもかかわらずオリンピックムードに包まれた。

長野オリンピックでは，「自然との共存，平和と友好」が基本理念として掲げられた。特に，自然との共存は，大きなハードルとなった。冬季大会では，雄大な自然の中での競技が求められ，大会の開催・運営は環境への配慮とぶつかることが少なくなかった。そのなかで英知を結集し，世紀の祭典が成功することができた。

大会概要

会　期	1998年２月７日～２月22日（16日間）
競　技	スキー，スケート，アイスホッケー，バイアスロン，ボブスレー，リュージュ，カーリング　計７競技68種目
開催都市	長野市
競技開催地	長野県長野市，山ノ内町，白馬村，軽井沢町，野沢温泉村
参加国・地域	72
参加選手	2,305人
役員	2,333人
メディア	8,329人
運営要員	総数44,066人（うち32,579人がボランティア）
観客数	延べ1,442,700人

●影響の回避

招致の段階から，環境保全の観点から会場選定に論議があった。当初，滑降競技は岩菅山を計画していた。岩菅山は，スキー場開発の進んだ志賀高原において唯一ともいえる自然環境の残された地域であったことから，自然保護の運動が起きた。札幌大会などの教訓を活かし，岩菅山の開発を断念し，既存の白馬八方尾根スキー場を活用することになった。男子競技の難易度を確保するためには，八方尾根コースのスタート地点を引き上げる必要があり，このために中部山岳国立公園の第１種特別地域を横切ることとなった。ここでも自然保護の観点から議論がなされ，結果として特別地域の上部にマウンドをつくりジャンプで上空を通過することなどで最小化を図る妥協案となった。この問題が解決したのは，開催２カ月前。自然保護と国際競技のレギュレーション確保のトレードオフについて，最後の最後まで慎重な検討が繰り返されたことを物語っている。

バイアスロン競技会場では，当初予定されていた白馬村の候補地での環境アセスメントの結果，オオタカが営巣していることが判明し，環境保護を優先する観点から競技会場を野沢温泉村に変更することになった。

●環境への影響を緩和する措置

ボブスレー・リュージュ会場では，コンパクトなコース造成により土地の改変を最小限にする試みがなされた。世界で初めて上り勾配のあるレイアウトにしたり，コース冷却にはフロンガスの利用をいち早く避け，アンモニア間接冷却方式を採用した。

自然環境を改変する必要のあった各会場建設においては，環境アセスメントなどの手続きを行いながら，表土復元工法や幼苗植栽，既存木の移植利用，希少動物・植物の移植，移動ルートの確保，巨石積みなど自然素材・現地発生材の活用，橋脚など人工構造物の塗装やテクスチャーの工夫，建設機械の配慮など，さまざまな影響緩和の手法が実施された。

また，屋内競技施設においても，自然採光や通気，地下水利用，コ・ジェネレーションシステム，太陽光発電など自然エネルギー利用などを積極的に取り入れ，緑化など修景にも力が入れられた。大会には多くの仮設施設が必要となるが，これらもリース対応や転用などにより，大会後も資源を廃棄することなく再利用が可能となった。

●オリンピックがもたらした資産

オリンピック競技施設のみならず，大会を契機に整備が大幅に進んだ新幹線や高速道路網などは，その後も長野の経済を支えるインフラとなって機能しており，直接的な資産である。こうしたインフラを活用しながら，長野オリンピックで醸成されたホスピタリティは，パラリンピック，スペシャルオリンピックス冬季世界大会と国際的なスポーツ競技へと発展した。この時，バリアフリー，ユニバーサルデザインを普及させるチャンスであったが，街づくりの大きな潮流には至らなかった。しかしながら，大会運営はもとより，植樹や花苗育成などさまざまな面で活躍したボランティアは，かけがえのない経験として地域に息づき，無形の資産となっている。

アルペン滑降競技会場
（白馬村八方尾根）

スパイラル（ボブスレー・リュージュ会場，長野市飯綱高原）

写真はいずれも『美しく豊かな自然との共存をめざして』；NAOC 長野オリンピック冬季競技大会組織委員会パンフレットより

＊（株式会社 KRC 代表取締役，NPO 法人 CO_2 バンク推進機構理事長，国立長野工業高等専門学校講師，長野県林業大学校講師）

北海道支部だより

北海道支部が設立されておよそ18年が経過しました。昨今の厳しい経済環境を反映して，当支部の会員数もピークであった平成12年の24社から現在は11社にまで減り，活動自体も全体的に停滞ぎみになっています。

そのような中で，以前から当支部が中心になり実現を目指してきた花と緑のネットワークイベントともいえる「ガーデンアイランド北海道2008」(略称 GIH)は，昨年の４月から10月までの約半年間，全道を舞台に開催されました。

「ガーデンアイランド北海道」(略称 GIH)とは，北海道の自然，緑，花をテーマに，“美しい庭園の島･北海道”の実現を目指す道民運動です。2008年は，この運動を広く道民に周知するための一つのイベント年，また本格的な活動のスタート年と位置づけ，いろいろな事業を展開してきました。

昨年実施した主な事業は次のとおりです。

●「札幌駅南口プロジェクト」,「花フェスタ2008札幌」への参加・協力

JR 北海道と共同で，６月から８月までのおよそ３カ月間，JR 札幌駅南口を季節の花で飾りました。また，札幌大通公園で毎年６月に開催される「花フェスタ2008札幌」に参加,大通公園西８丁目広場に白い花だけでつくる花壇「ホワイト・フラワー・マントラ」を設けました。

●ガーデンアイランドツアーの誘致

北海道がより魅力的なフラワーツーリズムの目的地になるように，NHK 出版の「趣味の園芸」誌とタイアップして「ガーデンアイランド北海道2008花巡りツアー」を実現，６月から９月まで計８回,延べ200人のツアー客を道外から誘致しました。

●ガーデンアイランド全国大会等の開催

造園・園芸関係者やガーデナーの技術向上と人的交流を促進するため，GIH の全国大会である「ガーデンアイランド北海道ミーティング in しかおい」を十勝で開催，また清里町と遠軽町でそれぞれ他団体との共催でフォーラムを開催し，ガーデンアイランド運動の盛り上げを図りました。

●北海道洞爺湖サミットに協力

2008年７月に開催された北海道洞爺湖サミット関連では，高橋はるみ知事が提唱する「北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト推進会議」のメンバーとして，大型コンテナの制作・配布，花のガイドブックの作成などをお手伝いしました。

以上のように，2008年には様々なイベントや事業を行ってきました。偶然にも，北海道洞爺湖サミットと同時並行で実施できたことで，結果的に北海道民の環境や緑への関心を高めることに貢献できたのではないかと思っています。

ガーデンアイランドの2008年の事業は終了しましたが，当支部としては，今後も市民団体とともに，ガーデンアイランド運動に協力し，花と緑の分野における新たな可能性を切り開いていきたいと考えています。

最後に，このような活動のさなかの昨年８月に，当支部の設立にご尽力いただき，初代支部長を務められた渡辺亜紀夫さんが急逝するという悲しい出来事もありました。心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

札幌駅に設置したフラワーフレーム。３週間ごとに北海道にゆかりのある花を飾り，季節の風物詩を演出

「花フェスタ2008札幌」で大通公園西８丁目広場に設けたホワイト・フラワー・マントラ

東北支部だより

支部設立８年目，地域に密着したCLA分野の業務技術の向上を図っています。

CLAは，地方自治体や他のコンサルタント業技術者からは，都市計画・地方計画の中の公園等分野と考えられていますが，その活動分野は多岐にわたります。また東北地方は広く，支部会員数の割に活動エリアが広い状況ですが，積極的に活動しています。

昨今は，「景観法」による，市町村の「景観計画」策定や，「歴史街づくり法」の施行などわれわれに有利な状況であり，自治体からは，優れた地域景観形成への提案等，その役割と支部への期待は大きくなっています。

健全な発展を図り社会的地位の向上を目指すことも支部の大きな課題のひとつとして考えています。

●業務領域の確保・拡大に向けた活動の展開

今年度は，支部会員の業務量の確保・拡大を掲げてきていたが，期待する成果・活動ができていないまま推移してきました。

しかし，平成の市町村合併で誕生した新市等は合併直後の取り組みが一段落，次のステップとして新市計画・既存インフラ整備実施への取り組み本格化してきている状況となっています。

市町村財政の急激な悪化もあり，地域の緑の活用に向けて，既存インフラの効果的な利活用に少ない予算での一回りも二回りも智恵を結集した工夫・取り組みが求められています。

小規模公園や公共用地を非常時の空間利用など含めた多目的な利活用対策が求められています。この間，市町村からは支部への問合わせが少なからずあり，その多くは協会発行「積算資料・会員名簿」の資料請求です。支部会員が分担して対応し，「CLA journal」も携え直接訪問，届けて技術相談を行っています。市町村技術者が積算時に最も必要とする資料となっています。

地域における「みどりの環境創造」を掲げている当支部では今後も配布体制の充実を図り，地域密着型を推し進めると同時に技術者に必要な情報が届くような支部体制の改善も検討し，業務量の確保・拡大に務めていきたいと考えています。

●「風景としての東北再発見」ミニ・フォトコンテスト実施結果

作品の特徴から募集期間を07～09年として延長実施しました。選考基準を「東北の歴史・伝統と生活に密着した風景作品」として選考しました。

2008年７月15日締め切りで応募９名，66作品が寄せられました。選考が支部の事情で大幅に遅れてしまいましたが，応募作品から暮らしと風景を上手に表現した作品７点を掲載しました。

江戸期の暮らしが残る：大根田清

古くは飢饉にも備えた保存食：河野春治

古代日本の冬のおやつ：髙橋こうけん

江戸期の希少民家とかまくら：河野春治

高地の棚田の秋桜と稲の収穫：千葉恵

境内の休屋からの紅葉：千葉弘

江戸期の希少民家：菅原法雄

写真は07～09支部実施のミニ・フォトコンテスト応募作品より代表作品を紹介（応募者に感謝いたします。コメントはCLA東北支部記述）

関東支部だより

●情報誌の発行

業務拡大につながる話題や支部活動を発信する，支部情報誌「みどりの手帖」を年３回発行の予定で創刊しました。創刊号は「CSR とランドスケープ」特集として CSR で活躍されている方に CSR の現状と今後 CLA 会員が活躍していく方向についてのインタビューを掲載しました。今後は，ランドスケープの仕事内容や技術について紹介する紙面づくりをしていく予定です。支部会員のほか，自治体・関係団体・大学の研究室などに配布しましたが，協会 PR のために CLA のイベントやセミナー，学会等での配布を予定しています。

●支部ホームページのリニューアル

会員に役立つ情報発信と支部活動の外部へのアピールを強化するため，支部ホームページをデザインも一新してリニューアルしました。セミナーのお知らせ・報告，支部会員リストなどの情報が利用しやすい画面構成にしています。また，会員の営業活動に活用していただけるように，支部情報誌「みどりの手帖」をトップ画面でダウンロードできるようにしました。<支部ホームページ URL> http://www.cla-kantou.jp/

●技術研修会の開催

2008年10月に一造会，NPO 屋上開発研究会と共催した「新技術発表会」として開催。屋上緑化・壁面緑化等の最新技術について企業・団体から発表があり，参加者による意見交換と懇談会を行いました。当日は盛況で発注者，施工・材料業者，コンサル，市民，学生の方々から定員を超える参加がありました。

また，支部会員の技術研修のためのセミナーをランドスケープ技術の新しい方向性を探っていく意をこめて「CLA 関東支部ビジョンセミナー」としておおむね３カ月に１回の頻度で開催しています。

2009年１月に「ユニバーサルデザインと公園設計」をテーマに開催。㈶都市緑化技術開発機構のユニバーサルデザイン共同研究会が行ってきた公園のユニバーサルデザインに関する研究成果の発表と，同会員の方々が講師として参加した「東京都特別区研修」で収集・整理された行政側のユニバーサルデザインに対する意見・意識を題材に話題提供・問題提起し，公園設計の中でユニバーサルデザインを実現するにあたっての課題・方法等について意見交換を行ないました。

●業務の発注・拡大に向けた取り組み等

大きく変容している入札制度の現状に対し，良好な受注環境の創造に向けた議論を深めるために，入札制度に関わる課題・問題点の抽出を行っています。これまでに実施した懇談会，意見交換会などから吸い上げられた現状の問題点・課題を取りまとめ，会員に簡易プロポーザル等に関する問題点のアンケート及び資料提供をお願いしました。また，国や建設コンサルタント他団体の対応等についても情報の収集を行っています。これらの活動で収集・整理した情報は，支部業務委員会が中心となって「ランドスケープコンサルタント業務（簡易型）プロポーザル方式の実施要綱」の基本原案としてとりまとめ，来年度にはその実施を要望したいと考えています。

●支部連絡会議

2008年10月 CLA 事務局において，関東支部が幹事となり支部連絡会議が行われました。各支部から近況の活動報告があり，今後の受注活動について意見交換が行われました。今後の受注活動についての討議では，現場説明会が廃止されたことによる課題・問題点，サービス業務過大の現状，低価格入札，CLA 会員登用の機会拡大，ランドスケープ関連業務におけるプロポーザル方式の問題点，望ましい発注方式などについて，活発に意見が出されました。

中部支部だより

中部地方では，平成17年に地球環境をテーマとした日本国際博覧会「愛・地球博」が開催されたり，平成22年には名古屋で「生物多様性条約締約国会議」(COP10)の開催が決まっていることなどから，みどり環境への関心は一段と高まってきております。

平成20年11月には，名古屋市では全国に先駆けて市街化区域の全域を対象とする「緑化地域制度」が導入され，平成21年４月には，愛知県において，いわゆる，環境税としての「あいち森と緑づくり税」の導入が決まっております。また，名古屋市の鶴舞公園は明治42年の開設以来今年の11月には100年という節目を迎えることとなります。

私どもは，これらの社会状況に対応して，受注業務，あるいはパブリックコメントや自主イベントを通じて，みどりの専門家集団として美しく質の高い環境の実現につとめ，より良い環境を次世代に伝えていきたいと活動をしております。

以下に，この地方での主な「みどりの話題」をご紹介します。数年先にはその成果が発揮され，必ずや魅力的な彩りのまちづくりが大きく前進していることと思われます。

●支部設立20周年記念事業！

当支部では，平成20年の設立20周年に際しまして，ランドスケープの本質を再認識するとともに，協会活動の活性化と会員各社の社会的認知および技術力の向上を目指して。「生物多様性とみどりの街づくり」というテーマのもと，５つの記念事業①「建設技術フエア in 中部」と「日本造園学会中部支部大会」へのパネル出展②「20周年記念式典・祝賀会」の開催③「20周年記念講演会」の開催④「里山手作りアート大会と記念植樹」の実施⑤「支部機関誌20周年記念特別号」の発行に取り組みました。詳細につきましては，CLA ホームページ「中部支部」欄をご覧下さい。

●COP10を2010年に開催！

2010年，名古屋市で「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が開催されます。

2010年は，国連で定めた「国際生物多様性年」であり，2002年の COP6で採択された「締約国は，現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という「2010年目標」の目標年にもあたります。そのため，COP10は，生物多様性条約にとって節目になる重要な会議となります。

開催時期：2010年10月18日～29日
参加規模：約7,000人（COP9参加者実績）
議 長 国：日本
開催場所：名古屋国際会議場，愛・地球博記念公園，東山動植物園等

●祝！　鶴舞公園100周年

2009年，名古屋市の中心部に位置する鶴舞公園が開園100周年を迎えます。

鶴舞公園は，1909年（明治42年）名古屋市設置第１号の公園として誕生し，名古屋開府300年事業として，噴水塔や奏楽堂（現在の建物は1997年復元）が建設されました。

公園の100年を振り返るとともに，これからの公園とみどりについてみんなで考える機会とするため，鶴舞公園100周年記念事業「つるまこうえん・百歳・祭！」が開催されます。

開催時期：2009年４月～11月
テ ー マ：“温故創新”公園の100年を市民とともに祝い，未来のみどりを創造しよう　～鶴舞公園から発信する新しい公園のかたち～

●愛・地球博覧記念公園「モリコロパーク」整備・運営

愛知県の愛・地球博記念公園「モリコロパーク」は，国際博覧会として初めて「市民参加・市民協働」を導入して大きな成功を収めた「愛・地球博」を記念する公園として，博覧会の理念と成果を引き継ぎ発展させていく公園です。公園整備にあたっては，「県民参加と多様な交流で成長する公園」を掲げ，また，管理運営にあたっては，「県民と行政のパートナーシップ」による「公園マネジメント会議」を設置し，両者が共に考え実践していく取り組みが注目されています。

●「あいち森と緑づくり税」の創設

愛知県では，緑を県民共有の財産と位置づけ，森と緑が持つ環境保全，災害防止等の機能を維持増進するために，「あいち森と緑づくり税」が平成21年度に導入されます。

これを活用して，森林（人工林）の再生や里山林の保全・活用，都市の緑の保全・創出といった森と緑づくりのための新たな施策が展開され，「山から街まで緑豊かな愛知」の実現を目指すこととなります。

関西支部だより

関西支部では，対外的な活動を中心に様々な活動を行っていますが，20年度は主要なものを挙げれば，ここ数年恒例化している以下の４点となります。

●グリーンサーカス2008

例年通り，国土交通省及び近畿の３府県３政令都市で構成される近畿都市緑化推進連絡協議会と「みどりの５団体」との共催による「近畿都市緑化祭～グリーンサーカス2008～」を開催しました。これは，一般市民を対象にした緑に関する普及啓発活動で，20年度は兵庫県淡路夢舞台公苑で2008年10月に開催しました。

当日は，雨天となったため来場者は少なく，例年のような賑わいはありませんでしたが，約40カ所のテントでは，各種の展示や体験教室，花卉等の販売配布の他，芝生広場ではコンテナガーデンや，ハンギングバスケットのガーデンコンテストも行われました。

●みどりのまちづくり景観賞

３回目となる「みどりのまちづくり景観賞」。

20年度は，北大阪エリアを対象として，2007年の秋季より募集を行い，10点の応募がありました。2008年５月に審査会(委員長：増田昇　大阪府立大学教授)を開き,「大賞」,「自然のハーモニー賞」,「やさしさの小径賞」,「まちの中のほっとスポット賞」の表彰を選定し，10月に服部緑地都市緑化植物園で表彰式を行いました。この景観賞の特色は，市民による花やみどりの豊かな「まちなみ」等を主たる対象とし，グループでの取り組みに重点を置いています。花・みどりの美しさ，豊かさのみならず，活動の過程や“輪のひろがり”等も評価することや，受賞グループに対しては，賞金と受賞銘板を授与することにしており，今回も授賞グループから大いに感謝されるとともに，元気づけることになりました。

●学生設計競技2008

今回で８回目となる学生設計競技。千里ニュータウンの「千里西町公園(約2.0 ha の近隣公園)」とこれに隣接して，千里中央駅に続く歩行専用道路の再整備計画を課題としました。応募数は27点(14大学)で，意欲的な作品も多くみられました。審査会(委員長：増田昇　大阪府立大学教授)の結果，優秀賞３点，入賞３点が選定され，2008年12月に「年末交流会(関西支部が主催する造園界の交流会)」で，講評及び表彰式を行いました。

●街角サロン

このサロンはCLA の若手技術者の交流と技術の向上を目ざして平成14年度に設立したものですが，現在ではCLA会員のみならず「RLA 会立ち上げ準備会関西チーム」のメンバーや，建築・土木コンサル，行政，メーカー関係者，学生等を含む，広範囲な人達によって幅広い活発な活動を行っています。20年度は自然再生や，庭園に関する見学会を９回（うち３回は造園 CPD 認定プログラム）開催しました。

この他，2008年10月「第８回韓日造景人親善蹴球大会大阪大会」の開催運営に協力をしました。日本造園人（北海道，関東，関西)60名，韓国造景人約40名の計100人の参加の下，サッカー大会のみならず，ランドスケープに関する見学会やセミナーを含めた多彩な行事を，大阪市舞州スポーツアイランドを拠点に行い，関西支部のメンバーが中心となって大いに盛り上げました。(公式試合は，３－２で久し振りに日本の勝利)

こうした，関西支部の活動の他ランドスケープに関する“情報”を記載した「Landscape Kansai」を毎年４回発行し，行政をはじめ，関係機関・各位に送付しています。2008年11月で創刊以来87号となっています。

九州支部だより

九州支部では「都心に緑豊かな空間を!!」をキャッチフレーズに，立体都市公園の提案をしました。

●目　的

「立体都市公園の提案」は，協会員の退会や業務量の減少などあまり明るい話題のない現状を踏まえて，少しでも支部が活性化できる取り組みがないかと始めました。その目的は以下の通りです。

■仕事に夢を持つ

若い人たちが「こんな街にしたい」と，仕事に夢を持てるようなプランを描いてみたい。

■新たな業務の創造

待ちの姿勢ではなく，積極的な提案によって新たな業務の掘り起こしにつなげたい。

■協会及び協会員の PR

優秀なデザイナーやプランナー及びその会社を広く一般に PR したい。

●何故，立体都市公園なのか

平成16年の景観緑三法に関連して都市公園法が改正され「立体都市公園制度」が施行されました。これは，既存公園の利用の巾を広げるだけでなく，都心部に緑豊かな憩いの空間を創出する手法としても有効であり，様々な可能性を秘めた制度です。支部では特に以下の点に注目し，この制度を用いた提案を行うことにしました。

■必要な場所に公園の設置が可能

従来は用地確保の点で，公園が設置できる場所が限定されていたが，この制度を適用すれば，都心部の一等地でも公園が必要な場所に設置が可能である。

■商業施設や文化施設等，他の機能との一体化が可能。

公園が商業施設や文化施設と一体化することによって，より魅力ある空間の創出が可能である。特に既存公園のリニューアルには有効である。

●提案の進め方

①アイデア募集（平成19年度）

既存公園，新設公園において「立体都市公園制度」を活かした様々なアイデアを広く一般に公募し，アイデア集としてとりまとめました。これらのアイデアを活かして，都心部における夢のあるモデルプランを作成します。

②モデルプラン作成：天神花と緑の回廊（平成20年度）

福岡市の中心部の天神地区について「立体都市公園制度」を活用し，既存公園，新設公園を中心とした緑豊かな再開発プランを作成します。モデルプラン作成の際には，協会員，関係官庁や市民，学識経験者等から広く意見を伺い，「緑の夢」の種をまきながら進めます。モデルプランのコンセプトは以下の通です。

■賑わいのある街に欠かせない回遊性の向上につながる「花と緑の回廊」を目指します。

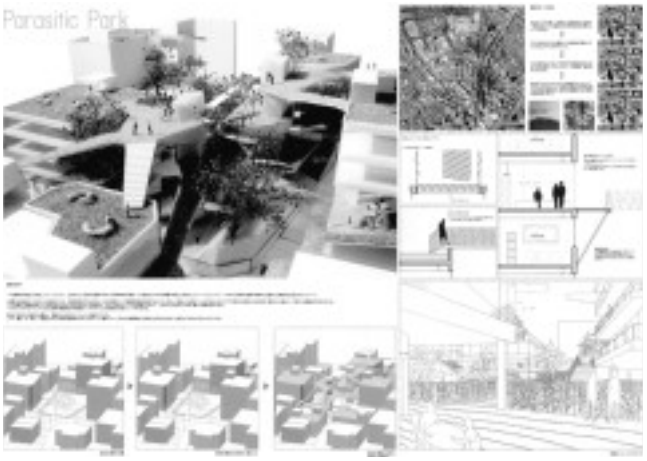
■表参道や仙台のケヤキ並木のように，福岡の「緑のシンボル」となる空間を目指します。

■都心部の風の道となりヒートアイランドの緩和に貢献する緑地軸を目指します。

③パンフレット作成と広報ＰＲ（平成21年度）

アイデア集とモデルプランをパンフレット等にまとめ，緑の普及，協会の広報 PR 資料として市民や各官庁，民間デベロッパー等に配布します。また，ホームページにも掲載します。

以上のように，支部活動は「気ばらず，休まず」，継続を第一として頑張っていきます。



「立体都市公園」アイデア募集　最優秀作品

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

◎：会長　○：副会長　◇：常任理事

正会員（五十音順）

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX 番号
㈱アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口隆康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018
㈱アーバンデザインコンサルタント	092-589-0081	◇堤　八恵子	812-0888	福岡市博多区板付4-7-28	092-589-0080
㈱愛植物設計事務所	03-3291-3380	山本紀久	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381
㈱あい造園設計事務所	03-3325-6660	○細谷恒夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262
アジア航測㈱	03-3348-2261	赤土　攻	160-0023	新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル	03-3348-2231
㈱荒木造園設計	0727-61-8874	荒木美眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234
㈱荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	矢野順也	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575
㈱アルファ計画研究所	045-263-3091	熊井千代治	231-0065	横浜市中区宮川町3-83 イワサキビル	045-263-3094
㈱飯沼コンサルタント	052-451-3371	◇飯沼忠道	453-0803	名古屋市中村区長戸井町4-38	052-451-6813
㈱稲垣ランドスケープデザイン研究所	042-335-5671	稲垣丈夫	183-0027	府中市本町4-10-4	042-335-5695
㈱ウエスコ	086-254-2433	永山　彰	700-0033	岡山市島田本町2-5-35	086-256-5161
㈱エーシーイー	03-3952-3171	玉村寿秀	165-0024	中野区松が丘2-32-19	03-3952-3177
㈱エキープ・エスパス	03-3407-4368	峰岸久雄	107-0062	港区南青山5-4-29	03-3407-4419
㈱エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	三宅祥介	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617
㈱ LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本忠順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715
㈱オオバ	03-3460-0127	萩野一彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160
㈱オリエンタルコンサルタンツ	03-6311-7851	宮内和則	150-0071	渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル 6 号館	03-6311-8021
㈱環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	杉浦　力	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696
㈱環境事業計画研究所	075-703-7531	吉村龍二	606-8166	京都市左京区一乗寺庵野町33-1	075-703-7530
環境設計㈱	06-6261-2144	井上芳治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146
㈱環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬篤美	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877
㈱環境デザイン研究所	03-5575-7171	中山　豊	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928
㈱環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下慶浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576
㈱環研究所	06-6306-2481	大石　博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第 7 ビル	06-6303-8614
キタイ設計㈱	0748-46-4902	梶　雅弘	521-1398	蒲生郡安土町上豊浦1030	0748-46-5620
㈱空間創研	075-353-6337	◇吉田昌弘	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鎌屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338
㈱空間文化開発機構	06-6229-0130	真鍋建男	541-0046	大阪市中央区平野町1-8-8 平野町安井ビル	06-6229-1292
㈱グラック	03-3249-3010	○枝吉茂種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685
㈱ KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301
㈱景観設計研究所	06-6444-7701	山田直樹	550-0006	大阪市西区江之子島1-5-3 中央興業ビル	06-6444-7731
㈱景観設計・東京	03-5435-1170	都田　徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909
㈱景観プランニング	028-650-3030	阿部訓安	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034
㈱国土開発センター	076-233-5333	小川秀一	920-0031	金沢市広岡3-1-1 金沢パークビル	076-233-5777
サンコーコンサルタント㈱	03-3683-7152	有賀一郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116
㈱シビックデザイン研究所	03-3226-9821	出来正典	160-0022	新宿区新宿1-13-11　シブヤビル	03-3226-9815
㈱新日本コンサルタント	076-436-2111	西田　宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260
㈱スペースビジョン研究所	06-6942-6569	宮前保子	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897
セントラルコンサルタント㈱	03-5117-1067	進藤郁生	104-0042	中央区入船1-4-10	03-5117-1086
㈱ ZEN 環境設計	092-643-5500	中村久二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520
㈱爽環境計画	03-3829-4691	木村　隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミール	03-3829-4692
㈱創建	052-682-3848	井上忠佳	456-0018	名古屋市熱田区新尾頭1-10-1	052-682-3015
㈱総合計画機構	06-6942-1877	◇糸谷正俊	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NS ビル	06-6942-2447
㈱総合設計研究所	03-3263-5954	木村　弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル 1 号館	03-3263-7996
㈱綜合庭園研究室	03-3300-1524	中島寛久	182-0003	調布市若葉町1-35-5 フォレストヒルズ仙川	03-3300-4749
創和エクステリヤ㈱	045-662-8028	風間伸造	231-0014	横浜市中区常盤町2-11 大宗トキワビル	045-662-8664
第一復建㈱	092-575-1047	畠山美久	816-0094	福岡市博多区諸岡1-7-25	092-575-1673
大日本コンサルタント㈱	0489-88-8119	伝谷恵一	343-0851	越谷市七左町5-1	0489-88-3115
高野ランドスケーププランニング㈱	0155-42-3181	金清典広	080-0344	河東郡音更町字万年西 1 線37番地 旧チンネル小学校	0155-42-3863
玉野総合コンサルタント㈱	052-979-9111	田部井伸夫	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112
㈱タム地域環境研究所	03-5345-5745	秋山　寛	165-0026	中野区新井2-30-4 IFO ビル	03-5345-5747

会　員　名	電話番号	協会代表者	〒	所　在　地	FAX 番号
㈱地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑中直樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478
㈱地球号	06-6945-7566	中見　哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595
中央コンサルタンツ㈱	052-551-2541	藤本博史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540
中電技術コンサルタント㈱	082-256-3357	菊原伴幸	734-8510	広島市南区出汐2-3-30	082-254-0661
㈱東京ランドスケープ研究所	03-5988-2800	小林治人	160-0033	新宿区下落合4-25-18 目白ハイビル	03-5988-2811
㈱ドーコン	011-801-1535	大塚英典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央１条5-4-1	011-801-1536
㈱都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波多野芳紀	540-0034	大阪市中央区島町2-4-9 島町第二野村ビル	06-6946-9747
㈱都市計画研究所	03-3262-6341	佐藤憲璋	103-0014	中央区日本橋蠣殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
㈱トデック	03-5638-2176	越智常博	135-0007	江東区新大橋1-8-11 三井生命新大橋ビル	03-5638-2168
㈱ナカタ空間企画	06-6930-4890	中田政廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896
中日本建設コンサルタント㈱	052-232-6032	中西秀伸	460-0003	名古屋市中区錦1-8-6	052-221-7827
㈱中根庭園研究所	075-465-2373	中根史郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374
㈱虹設計事務所	03-3419-7259	光益尚登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246
㈱日建設計	03-5226-3030	根本哲夫	102-8117	千代田区飯田橋2-18-3	03-5226-3053
㈱日水コン	03-5323-6200	小林昌毅	163-1122	新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー	03-5323-6480
㈱日本海コンサルタント	076-243-8258	大脇　豊	921-8042	金沢市泉本町2-126	076-243-0887
日本技術開発㈱	03-5385-5111	川尻幸由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8530
㈱日本総合計画研究所	03-3254-9668	坂本　圭	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
㈱ニュージェック	06-6374-4032	出口直彦	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ㈱	042-372-6530	西上律治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349
㈱フジランドスケープ	03-5719-2919	新井　豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野沢ビル302	03-6410-8135
㈱復建技術コンサルタント	022-262-1234	◇岩渕善弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計㈱	082-506-1853	真鍋章良	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
㈱プレック研究所	03-5226-1101	黛　卓郎	102-0083	千代田区麹町3-7-6 麹町 PREC ビル	03-5226-1112
㈱ヘッズ	06-6373-9369	◎大塚守康	530-0022	大阪市北区浪花町12-24 創建天六ビル	06-6373-9370
北海道造園設計㈱	011-758-2261	◇及川　渉	060-0807	札幌市北区北７条西2-6 山京ビル	011-709-5341
㈱ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳丸秀夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015
㈱三菱地所設計	03-3287-5750	深尾周一	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
㈱緑設計	0188-62-4263	板垣清美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	0188-62-4273
㈱緑の風景計画	03-3422-9511	福添隆二	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
㈱森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤内誠一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第２ビル	03-3582-2758
㈱和計画コンサルタント	03-3374-2227	鈴木　司	151-0071	渋谷区本町5-42-10 第２富喜マンション	03-3374-2559
㈱ UR リンケージ	03-6214-5736	長瀬　靖	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-3272-6017
㈱ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇村岡政子	136-0071	江東区亀戸2-36-12	03-5626-4740
㈱ LAT	082-273-2605	山木靖雄	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
㈱ランズ計画研究所	045-322-0581	川島　保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
㈱ランテック計画事務所	06-6945-0065	中尾幸彦	540-0031	大阪市中央区北浜東2-18 堀川ビル	06-6945-0124
㈱リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井英光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
㈱緑景	06-6763-7167	瀬川勝之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
㈱緑生研究所	042-499-7211	井上康平	182-0026	調布市小島町2-40-10 桐生ビル	042-487-4334
準会員（五十音順）					
㈲エコシビルデザイン	03-5362-3701	上村　央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
㈱エコル	03-5791-2901	庄司悦雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
扇精光㈱	095-839-2111	池田正志	851-0134	長崎市田中町585-4	095-839-2311
㈱環境緑地研究所	011-221-4101	小川興司	060-0004	札幌市中央区北４条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
㈱現代ランドスケープ	06-6203-1270	西辻俊明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
㈱サイプレス・ランドスケーププランニング	011-826-6485	中村圭吾	002-8072	札幌市北区あいの里２条4-9-12	011-826-6487
㈱シビテック	011-816-3001	笹浪徹也	003-0002	札幌市白石区東札幌２条5-8-1	011-816-2561
㈱シャトーシーピー	0268-62-3255	細谷順義	389-0502	東御市鞍掛383-9	0268-62-3256
㈱スタジオアーバンスペースアート	06-6845-9671	柳原壽夫	560-0041	豊中市清風荘1-5-1 関西地販	06-6845-9672
㈱セット設計事務所	042-324-0724	池田与志雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
ダイシン設計㈱	011-222-2325	関　利洋	060-0005	札幌市中央区北５条西6-1-23	011-222-9103
㈱塚原緑地研究所	043-279-8005	塚原道夫	261-0011	千葉市美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
㈱辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本智子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
㈱東京建設コンサルタント	03-5980-2633	和田　淳	107-0004	豊島区北大塚1-15-6	03-5980-2601
㈱都市ランドスケープ	03-5269-8982	内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-5269-8982

会　員　名	電話番号	協会代表者	〒	所　在　地	FAX 番号
㈱都市・景観設計	06-6228-3388	奥村信一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
㈲パーク綜合デザイン	075-343-4436	松原法昭	600-8357	京都市下京区猪熊通5条下る柿本町595-28	075-343-4870
㈱ライヴ環境計画	011-204-7922	有山忠男	060-0042	札幌市中央区大通西14-1-13 北日本南大通ビル	011-204-7955
㈱緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
㈱緑政計画研究所	03-3265-8482	飯塚良一	101-0065	千代田区西神田2-4-1 東方学会新館	03-3265-8483
賛助会員（五十音順）					
アゴラ造園㈱	03-3997-2108	髙橋正之輔	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
㈱アボック社	0467-45-5119	長尾重虎	247-0056	鎌倉市大船2-14-13	0467-45-6591
荒木窯業㈱	0942-27-3231	福山　茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設㈱	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
㈱ウォーターデザイン	03-3431-8070	流郷幹男	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業㈱	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市中川区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C ㈱	0956-48-8102	岩崎英喜	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
㈱岡部	0764-41-4651	竹中祐利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
海水化学工業㈱	0835-22-4787	常森函紀	747-0833	防府市大字浜方535番地	0835-22-1175
小岩金網㈱	03-5828-8828	島倉邦彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
㈱コトブキ　タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
㈱ザイエンス　営業本部	03-3284-0501	小山幹雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
㈱サカエ	0422-47-5981	栗田嘉嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
㈱サトミ産業	0258-35-3005	佐藤　勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
㈱三英　景観事業部	04-7153-3141	尾山弘善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
㈱三榮企業	042-386-8760	長嶋孝衛	184-0014	小金井市貫井南町4-11-36	042-386-8761
㈱サンエス	042-564-1021	横倉　登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
㈱ジオスケープ	03-3588-5990	須田清隆	105-0001	港区虎ノ門2-2-5	03-3588-5991
西武造園㈱	03-3989-2751	大嶋　聡	171-0022	豊島区南池袋1-16-15 西武鉄道池袋ビル	03-3989-3350
泉陽興業㈱	06-6632-1051	糸井雅明	556-0016	大阪市浪速区元町1-8-15	06-6632-1060
大永ドリーム㈱	027-269-6084	永島勝治	371-0131	前橋市鳥取町158-7	027-269-6086
太陽工業㈱　空間デザインカンパニー	03-3714-3461	坂手素行	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ㈱	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
㈱立山エンジニアリング	03-3449-6831	岩撫徳昭	141-0022	品川区東五反田1-8-12 小原サンデンビル	03-3449-6837
㈱中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田　博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業㈱	03-5703-1441	飯田博之	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業㈱	03-3405-1813	田中秀明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ㈱	03-5276-1101	星野弘壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ㈱	06-6767-1110	木田幸男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン㈱	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ㈱	0543-35-6271	石田勝若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
㈱中村製作所	047-330-1111	朝倉辰夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
㈱ナベシマ	093-617-3039	鍋島雅英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業㈱	03-3333-0210	結城健治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本興業㈱	087-894-1022	多田綾夫	769-2101	さぬき市志度4614-13	087-894-0603
日本体育施設㈱	03-5337-2616	奥　裕之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設㈱	03-3422-5331	花田　隆	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園㈱	075-341-2246	山田昌次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
㈱日比谷アメニス	03-3453-2401	奥本　寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2426
福原商事㈱	048-252-3351	福原　精	332-0021	川口市西川口3-23-14	048-252-0600
㈱富士植木	03-3265-6731	成家次男	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
北三㈱	03-3521-2111	大関利之	136-0082	江東区新木場1-7-6	03-3521-6644
㈱丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
㈱みぞい	022-255-9770	溝井敏男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
ミロモックル産業㈱	06-6390-0102	西森洋史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133

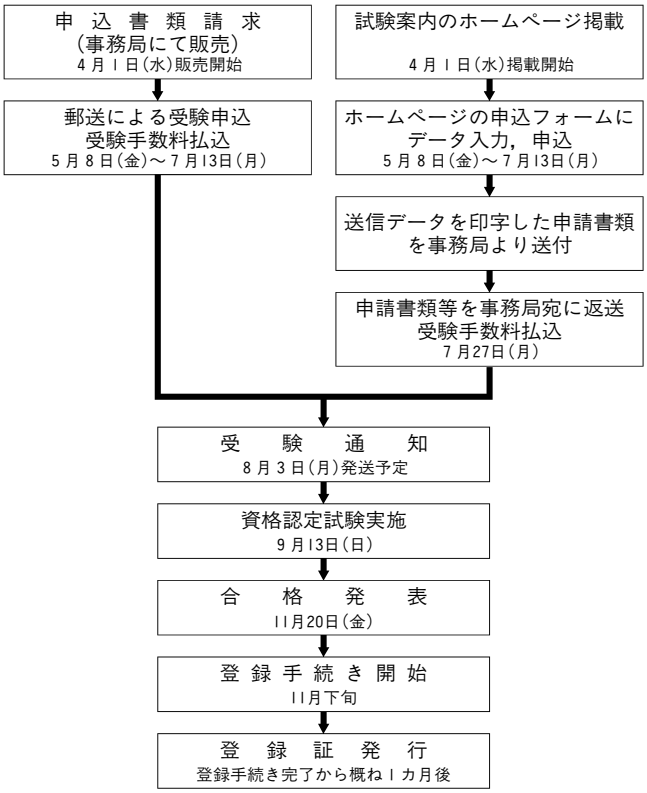
前号掲載の会員名簿において，常任理事の表記に誤りがありました。
関係各位に深くお詫び申し上げます。

2009年　登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験の実施について

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格制度総合管理委員会
社団法人　ランドスケープコンサルタンツ協会

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験」（以下「RLA 資格認定試験」）を下記のとおり実施します。本年より受験資格の緩和措置（必要業務経験年数の短縮，技術士取得者を対象とした試験の一部免除等）が実施され，受験しやすくなります。

1．RLA 資格取得までの流れ



※部分受験（再受験）の方については別途事務局より試験案内をさせていただきます

2．試験実施日時

2009年9月13日（日）　9時00分～19時00分

3．試　験　地

東京・大阪の2地区

4．受験手数料

15,000円

5．申込受付期間

2009年5月8日（金）～7月13日（月）

6．受験資格

学歴により，以下のいずれかに該当する者。

学歴	ランドスケープアーキテクチュアに関する必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大学卒業者	卒業後3年以上の実務経験を有する者 この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	卒業後5年以上の実務経験を有する者
短期大学卒業者 高等専門学校（5年制）卒業者	卒業後5年以上の実務経験を有する者 この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	卒業後7年以上の実務経験を有する者
高校卒業者	卒業後10年以上の実務経験を有する者 この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	卒業後12年以上の実務経験を有する者
上記以外の者	卒業後15年以上の実務経験を有する者 この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	

（注）1　ランドスケープアーキテクチュアに関する業務経験とは，ランドスケープアーキテクチュア事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。
2　ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は，正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。
3　指定学科とは，造園，緑地，農学，林学，環境，園芸，都市，地域，土木，建築系等のランドスケープアーキテクチュアに関する学科をいいます（詳細は受験の手引をご参照ください）。

7．試験の一部免除について

技術士を所有する方は，必要な書類を提出することにより，本資格認定試験の一部免除を受けることができます（詳細は受験の手引をご参照ください）。

8．申込方法

申込方法は，左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要事項を入力し申込んだ後，事務局より返送される申込用紙に署名，押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より下記の手続きにより申込用紙を購入し，必要事項を記入，署名，押印のうえ，郵便にて提出する方法です。

9．「申込用紙」の販売

1部500円で4月1日から下記事務局にて販売します。

（郵送請求の場合は，裏面の「受験申込用紙請求書」に必要事項をご記入のうえ，封筒に「RLA 資格認定試験申込用紙希望」と明記し，現金書留にて請求してください。（切手不可））

試験実施機関　〒102-0082　千代田区一番町9-7　一番町村上ビル2階　TEL03-3237-7371
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会内
登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格制度総合管理委員会事務局（土日，祝祭日は休日です）
試験に関する詳細な情報は，ホームページ（http://www.landscape-architect.org/）でご覧になれます

2016年東京オリンピック・パラリンピック招致支援

みどりの環境都市・東京・パネル展

東京都はオリンピック招致を契機に，将来に向けた持続可能な環境都市への転換を目指しています。また，その実現には「緑のムーブメント」を東京全体で展開することとしています。日比谷公園において，「緑のムーブメント」を推進する㈶東京都公園協会が，㈳ランドスケープコンサルタンツ協会をはじめとする造園界と協力して『**みどりの環境都市・東京・パネル展**』を開催します。

⑴　期　　間：平成21年４月１日㈬～４月25日㈯　平日・土曜日　９：00～17：00（日曜・祝日，休館）

⑵　場　　所：㈶東京都公園協会　緑と水の市民カレッジ３階　みどりのⓘプラザ（入場無料）

⑶　展示内容

●オリンピックと環境：オリンピックと環境遺産，IOC・JOC 環境方針など

●2016東京オリンピック会場計画：コンセプト，会場計画，環境計画など

●オリンピックで残してきた環境遺産：東京オリンピック，長野冬季オリンピック，バンクーバー冬季オリンピックなど

●2016年東京オリンピック・パラリンピックで環境遺産として何を残すか：提案や10年後の東京の紹介など

●オリンピック招致とみどりの環境づくり：オリンピック招致に向けて，支援活動の経緯など

主　催：財団法人東京都公園協会

後　援：特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会，東京都建設局，社団法人日本造園学会，環境緑化新聞社

協　賛：社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会，社団法人日本造園建設業協会，社団法人日本運動施設建設業協会，社団法人東京都造園緑化業協会，社団法人日本公園施設業協会東京支部，社団法人日本造園建設業協会関東・甲信総支部，社団法人日本造園建設業協会東京支部

【お問合せ】

㈶東京都公園協会緑と水の市民カレッジ事務局

みどりのⓘプラザ受付

〒100-0012　千代田区日比谷公園１－５

TEL：03-5532-1306　FAX：03-5532-1307

〈広報委員会〉委員長　細谷恒夫，副委員長　石井ちはる，委員　麻生薫，有賀一郎，池田裕一，杉原豪，林良尚，幹事　板垣久美子

〈編集後記〉

今号は，1964年東京，札幌，長野とオリンピックにおけるランドスケープアーキテクトの果たした役割と，今後に向けた私たちの関わりの重要さを改めて認識するものとなりました。オリンピックの資産としてスポーツ施設，都市インフラはいうまでもなく，市民スポーツ，健康運動，環境保護，市民参加等の機運を育てたことは多いに意義があります。オリンピックにかかわらず，そのどれにも幅広く関わってきた実績をアピールし，日々新しい視点や技術を身に付けて能力を発揮していかなければならない，いわばランドスケープアーキテクトもアスリートなのかもしれません。

最後に，ご多忙の折にも執筆や資料提供等でご協力いただきました蓑茂寿太郎氏，石川幹子氏，雑賀真氏，小口健蔵氏，佐藤由夫氏，大塚守康氏，宮入賢一郎氏，萩野一彦氏，北海道・東北・関東・中部・関西・九州支部広報担当各位，並びに広報委員に心より感謝申し上げます。

（石井）

2009　No. 167

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日●2009年３月31日

発行人●大塚守康

編　集●㈳ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所●㈳ランドスケープコンサルタンツ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7
一番町村上ビル
TEL 03-3237-7371　FAX 03-3239-7610
http://www.cla.or.jp

CLA

Consultants of Landscape
Architecture in Japan

ホームページでもご覧いただけます。 http://www.cla.or.jp